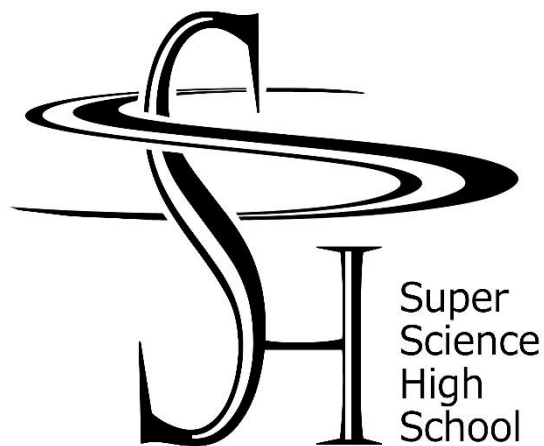


令和5年度指定

スーパーサイエンスハイスクール 研究開発実施報告書

(第3年次)

【本文有り】



令和8年3月

愛媛県立西条高等学校

はじめに

本校は、第Ⅰ期5年間に続き、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）Ⅱ期の指定を受け、今年度でその3年目を迎えます。本年度は中間評価の年度に当たり、昨年9月のヒアリングでは多くの御指導・御助言を賜りました。改めて深く感謝申し上げます。

これまでのⅠ・Ⅱ期における本校SSH事業の特徴と強みは、大きく次の2点にまとめられます。

1 全校体制で取り組む課題研究

本校には普通科・商業科・国際文理科の3学科がありますが、課題研究に強みをもつ国際文理科が中核となり、全学科を牽引しています。まず、国際文理科の生徒が「先生役」となって、普通科の希望生徒に、「アゾ染料の科学実験」や「豚の眼球の解剖実験」の授業をする機会を設けています。この取組によって、国際文理科の生徒は、課題研究に必要な発問力や質疑応答力を培っています。次に、課題研究の中間発表会では、普通科・商業科の会場に国際文理科の研究班を配置し、学科を越えた意見交換を行うことで、普通科・商業科の生徒のプレゼンテーション力を高め、質疑応答の質を向上させています。研究成果報告会でも3学科合同で発表を行い、普通科・商業科の生徒が国際文理科の研究手法を学ぶ機会としています。さらに、商業科の「商品開発」の研究から他学科が新たな研究のヒントを得るなど、学科横断型の学びが生まれています。特に、商業科が課題研究のテーマを「輝安鉱」としたのを契機に、国際文理科（科学部）が人工輝安鉱の生成に成功し、商業科はその人工輝安鉱を活用した新商品を開発しました。これらの成果は愛媛県教育委員会主催のコンテストで県知事賞を受賞するなど高い評価を得ています。

2 西条市役所・地域企業との連携

西条市は「SDGs未来都市」に、またその先導的取組が「自治体SDGsモデル事業」に選定されており、本校SSH事業にも深い御理解と御協力をいただいています。1年生の学校設定科目「有法子」では、市役所の担当者から経済・社会・環境の観点から西条市の課題について御講演いただくほか、プレ課題研究や2・3年生の研究テーマに関する相談にも丁寧に対応いただいています。さらに、必要に応じて市内企業・団体へ働きかけていただくなど、生徒の研究活動に寄り添った御支援をいただいています。特に、本校科学部は地元企業の協力を得て開発した「おむつ灰から作った絵の具」を用い、「水の都・西条」をアピールして地域活性化を図りたいと灯籠祭を実施しました。近隣の高校生と連携し、小学生とともに放置竹林の竹を用いた灯籠づくりや科学実験を行いました。このような地域探究活動の優れた成果は、西条市長へのプレゼンテーションや地域施設での発表会など、多くの「見える化」を図る機会を設けています。これらの経験が生徒の自己肯定感を高め、課題研究の質は年々着実に向上しています。

今後の課題と展望

上級生と下級生の交流機会が十分とは言えず、研究の継続性や本質性が課題となっています。そこで、1年生の「ポスター発表会」に2年生が参加するなど、学年間の協働の場を増やしています。今後は、西条高校独自の「人材ネットワーク」を強固なものにし、同窓生の大学生・大学院生をアドバイザーとして迎えるなど、多様な支援を得ながら取り組みを進めてまいります。

結びに

物理学者・寺田寅彦は「失敗を怖がる人は科学者にはなれない」「科学は命知らずの死骸の山に築かれた殿堂であり、血の河の畔に咲いた花園である」と述べています。失敗は挑戦した証であり、成功への不可欠な過程です。生徒たちの研究は未完成で粗削りな部分も多くありますが、壁にぶつかり、考え、試行錯誤を重ねながら挑戦しているからこそ、真に科学的な探究へと至る可能性が宿るのだと考えます。挑戦と挫折を繰り返す中で、いつの日かその挫折に光が差し、一輪の花が咲くことを願っています。

本校SSH事業に対し、物心両面から御支援・御協力を賜りました大学・学術機関、高等教育機関、西条市をはじめとする行政機関、企業の皆様にご心より御礼申し上げます。今後、研究開発及び課題研究をさらに充実させるためには、運営委員の皆様をはじめ、多くの関係者の御助力が欠かせません。引き続き、変わらぬ御理解と御支援、御指導を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

巻頭言

❶ 令和7年度SSH研究開発実施報告（要約）	1
❷ 実施報告書（本文）	
① 「研究開発の課題」について	8
② 「研究開発の経緯」について	10
③ 「研究開発の内容」について	11
1 学校設定科目「有法子」	
2 学校設定科目「ベーシックサイエンス」	
3 学校設定科目「マルチサイエンスⅠ」	
4 学校設定科目「マルチサイエンスⅡ」	
④ 「研究開発実施上の課題及び今後の研究開発の方向性」について	
❸ 関係資料	23

①令和7年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）

①「研究開発課題」について

「SDGsの達成に向けて科学技術イノベーションを担う生徒の育成
—地域発着の視座から—」

②「研究開発の概要」について

SDGsの視点に立って、3年間を通して生徒全員が課題研究に主体的に取り組むカリキュラムの研究開発を行う。また、地域の行政機関や企業、国内外の大学・研究機関等と連携した教育プログラムの研究開発を行い、SDGsの視点を生かした課題研究や科学研修の充実を図る。本校国際文理科を中心として、SSHの研究開発の「質」をより高めることで、普通科や商業科の生徒も「科学技術人材」の一役を担う人材として育成する。それらの成果を広く発信するとともに、地域に還元し、地域に貢献し、世界で活躍する生徒の発着拠点、地域の理数教育の拠点としての本校の役割を広げる。そして、一連の研究活動や研修の成果を客観的で有効な評価の研究開発を行う。

③「令和7年度実施規模」について

全日制課程第1学年～第3学年の普通科・国際文理科・商業科の全員をSSHの対象生徒とする。
〈課程・学科：学年別生徒・学級数〉（令和7年5月1日現在）

課程（全日制）

学 科	第1学年		第2学年		第3学年		計		実施規模
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
普通科	193	5	195	5	186	5	574	15	全校生徒を対象に実施
文系	—	—	<u>111</u>	<u>3</u>	<u>105</u>	<u>3</u>	<u>216</u>	<u>6</u>	
理系	—	—	<u>84</u>	<u>2</u>	<u>81</u>	<u>2</u>	<u>165</u>	<u>4</u>	
国際文理科	40	1	40	1	35	1	115	3	
国際科	—	—	<u>17</u>	—	<u>14</u>	—	<u>31</u>	—	
理数科	—	—	<u>23</u>	—	<u>21</u>	—	<u>44</u>	—	
商業科	35	1	40	1	40	1	115	3	
課程ごとの計	268	7	275	7	261	7	804	21	

④「研究開発の内容」について

○研究開発計画

1 研究開発単位1 「課題研究を中心とするカリキュラムの研究開発」

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次
「有法子」「マルチサイエンスⅠ」「マルチサイエンスⅡ」 課題研究の実践・検証・プログラム開発・連携先の拡充				
「ベーシックサイエンス」のプログラム、ルーブリック開発	「ベーシックサイエンス」のプログラム開発と試行	「ベーシックサイエンス」の実践・検証・プログラム開発、ルーブリック再検討	「ベーシックサイエンス」のプログラム開発・改善、ルーブリックの改善	

2	研究開発単位 2	「地域及び大学・研究機関との連携による教育プログラムの研究開発」			
	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次
	西条市との連携内容を検証	西条市との連携の精選・再編成	西条市との連携事業の実践・検証、負担軽減のための再検討	西条市との連携事業の実践・検証、プログラム開発、負担軽減のための再検討	
	愛媛大学探究活動 3 校連携の検討	愛媛大学探究活動 3 校連携の検討と試行	愛媛大学探究活動 3 校連携の試行と実践、プログラム開発	愛媛大学探究活動 3 校連携の実践、プログラム開発、内容の再検討	
	関東・関西現地研修の再検討	関東・関西現地研修の試行研修実施	関東・関西現地研修の実施	関東・関西現地研修の実施、内容の再検討	
	ハワイ現地研修の計画検討	ハワイ現地研修の試行研修実施	ワイパフ高校本校来校共同研修の実施	ハワイ現地研修との相互研修の実施、内容の再検討	

3	研究開発単位 3	「『質を高める取組』の充実と『地域発着』拠点としての役割の拡大」			
	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次
	「アドバンス科学講座」の試行実施	「アドバンス科学講座」の試行実施 検証方法検討	1 年生を対象とした拡大版「アドバンス科学講座」の検討試行	拡大版「アドバンス科学講座」の実施、検証方法の検討	
「ベーシックサイエンス」「マルチサイエンスⅠ」「科学英語」「マルチサイエンスⅡ」の科目連携による一貫した国際文理科の質を高めるための取組の実践、検証					
地域の理数教育拠点校として「授業公開」及び「意見交換会」の実施 SSH事業の普及・交流を目指す活動（各科学系部活動 各マルチサイエンス研究班）					
SSH成果報告会の地域開催を検討	SSH成果報告会の地域での試行開催	SSH成果報告会を地域で共同開催し、内容・場所を再検討			

○教育課程上の特例

学科	開設する科目名	単位数	代替・減単位科目等	単位数	対象
普通科 国際文理科 商業科 (全学科)	有法子（1 年生）	1	総合的な探究の時間 情報Ⅰ 保健	3	全学科
	ベーシックサイエンス（1 年生）	2		1	
	マルチサイエンスⅠ（2 年生）	2		1	
	マルチサイエンスⅡ（3 年生）	1		1	

1 全学科

学校設定教科「マルチサイエンス」を設定した。1 年生「有法子」は全年度入学生 1 単位。「ベーシックサイエンス」2 単位。2 年生「マルチサイエンスⅠ」2 単位。3 年生「マルチサイエンスⅡ」1 単位。

2 普通科、国際文理科

- 「情報Ⅰ」（全年度入学生）を 1 単位減じた。「ベーシックサイエンス」で情報活用能力やサイエンスリテラシーの育成を図るため、1 単位減じても科目の目標を十分に達成できると判断した。
- 2 年生「保健」を 1 単位減じた。「有法子」で、健康法や医療に関する内容を取り扱うため、1 単位減じても科目の目標を十分に達成できると判断した。
- 1 年生～3 年生「総合的な探究の時間」3 単位は「有法子」及び「ベーシックサイエンス」「マルチサイエンスⅠ・Ⅱ」で代替した。

課題発見力を身に付けさせた上で、充実した課題研究を行わせ、課題解決に向けた実践力を養うことで、「総合的な探究の時間」の目標を十分に達成できると判断した。

3 商業科

1年生～3年生「総合的な探究の時間」3単位は「有法子」及び「ベーシックサイエンス」「マルチサイエンスⅠ・Ⅱ」で代替した。

課題発見力を身に付けさせた上で、充実した課題研究を行わせ、課題解決に向けた実践力を養うことで、「総合的な探究の時間」の目標を十分に達成できると判断した。

○令和7年度の教育課程の内容のうち特徴的な事項

＜課題研究に係る取組＞

学科・ コース	第1学年		第2学年		第3学年		対 象
	教科・科目名	単位数	教科・科目名	単位数	教科・科目名	単位数	
普 通 科	ベーシックサイエンス	2	マルチサイエンスⅠ	2	マルチサイエンスⅡ	1	全学科 全校生徒
国 際 文 理 科							
商 業 科	有法子	1					

1 学校設定科目「有法子」（1年生全員対象・1単位）

- (1) 2学期前半までは、地域課題を理解させ、課題解決に向けた研究計画を立案させる。
- (2) 2学期後半以降、(1)を踏まえ、地域課題の解決に向けた「プレ課題研究」に取り組ませる。

2 学校設定科目「ベーシックサイエンス」（1年生全員対象・2単位）

- (1) 理科分野と情報分野の内容を並行して学習させる。理科分野では、実験の意義と課題の考察、課題解決のための仮説及び実証実験計画の立案、実証実験の実施を通して実験をデザインする力を養う。情報分野では、データサイエンスの手法を取り入れ、「RESAS」や「e-Stat」を用いてデータのグラフ化や統計的な見方を養う。
- (2) 学校設定科目「有法子」との連携を図る。

3 学校設定科目「マルチサイエンスⅠ」（2年生全員対象・2単位）

- (1) 1・2の学習を踏まえて、全教員の指導の下、2年生全員に課題研究に取り組ませる。
- (2) 大学・専門学校、行政機関等との連携により研究の充実を図る。

4 学校設定科目「マルチサイエンスⅡ」（3年生全員対象・1単位）

3で取り組んだ課題研究の質の向上を図り、その成果を各種コンテストに出品する。国際文理科において、英語による課題研究発表会を実施する。

○具体的な研究事項・活動内容

1 SSH指定校採択の審査における指摘事項を受けての取組の改善点

指摘を受けた事項について全教員で課題を共有し、SSH推進ワーキンググループ（以下WG）を中心に事業の改善・見直しを進めた。特にⅠ期において、ループリックを活用した自己評価や相互評価を実施していたものの、全体的な分析や評価に至らなかった点を反省し、ループリックを一新し、「Teams」を利用して一覧表を全教員で共有できるようにした。また、海外研修先としてハワイを選定し、連携先の高校との相互訪問や事前・事後指導、成果発表会を充実させることで、参加者のみならず、これらの成果を全校で共有できるよう工夫した。以下、研究開発単位ごとに詳述する。

2 研究開発単位1 「課題研究を中心とするカリキュラムの研究開発」

(1) 学校設定科目「有法子」（1年生全員対象・1単位）

「経済」「社会」「環境」の3側面の地域課題に関する講義を西条市役所に依頼し、講義で得られた課題を基に、課題解決を図る研究計画を立てさせ、1・2学期とクラスごとの発表会で成果を共有した。その後、各班から課題を抽出させ、市役所とも連携して生徒から主体的に上がった地域課題に対して「プレ課題研究」に取り組ませた。研究成果はポスターにまとめ、クラス発表後、クラスごとの最優秀作品を発表する学年発表会を実施

し、2年生をメンターとして参加させた。また、運営指導委員にも指導講評をいただいた。

(2) 学校設定科目「ベーシックサイエンス」（1年生全員対象・2単位）

理科分野と情報分野の両方を並行して学習させ、課題解決へのプロセスをデザインする力、データを処理する力を付けるよう理科教員と情報科教員が1単位ずつ担当し、連携して指導した。理科分野では物理・化学・生物・地学の各科目で、実験を中心にして論理的に思考する過程を重視した。情報分野では情報リテラシーを踏まえて、データのグラフ化やその収集に取り組ませた。「RESAS」を用いて分析を行わせることで、前述の「有法子」とも連動させ、地域課題分析により客観性を持たせた。

(3) 学校設定科目「マルチサイエンスⅠ」（2年生全員対象・2単位）

1学年での学習を踏まえ、SDGsの視点に立って課題研究に取り組ませた。ブレインストーミングの手法を用いることで、生徒に主体性のある研究テーマを設定させた。学期ごとの報告会では、市役所や周辺中学・高校教員に公開することで、成果の公表・普及を図った。学年末には研究の成果を地域の施設である「西条市総合文化会館」で発表した。市内の高校生にもポスター発表者として参加していただき、地域全体で課題研究に取り組んだ。それらの成果物を近隣施設である「SAIJO BASE」に1か月間展示し、広く市民に見ていただいた。

(4) 学校設定科目「マルチサイエンスⅡ」（3年生全員対象・1単位）

2学年での学習を踏まえ、継続して課題研究に取り組ませ、研究の質を高めさせた。また、課題研究の成果を各種コンテストへ応募させるとともに、プレゼンテーションスキルのブラッシュアップを図り、進路実現につなげた。文理問わず多くのコンクールへの入賞を果たし、研究の質も向上している。また、総合型選抜や学校推薦型選抜において、課題研究を加点材料としたり、プレゼンテーション発表を受験科目として選択したりする受験生が増え、受験の成果としても課題研究が大きな役割を果たした。

3 **研究開発単位2** 「地域及び大学・研究機関との連携による教育プログラムの研究開発」

(1) 地域との連携

1学年「有法子」の時間に、西条市の職員による地域課題に関する講義や取材協力を依頼した。また、2学年「マルチサイエンスⅠ」でも西条市政策企画課と連携して、課題研究に関する取材のスケジュール調整を行い、円滑に実施することができた。学期ごとの成果報告会には多くの市役所職員に参加していただき、建設的な助言をいただいた。また、「西条市SDGs推進協議会」と連携した出前講座やワークショップを実施した。さらに、市長と各部署の課長を交えた成果報告会や本校生徒が市長と意見交換会を行う「市長とHR」という行事を夏休みに行い、本校の研究成果や生徒の意見を聴いていただくなど、連携を密にしている。地域の事業所への工場見学や専門講座の講師をお願いするなど、多くの民間事業所とも連携を深めた。

(2) 地域の大学・研究機関等との連携

愛媛大学との連携では、「愛媛大学グローバルサイエンスキャンパス」「えひめサイエンスリーダースキルアッププログラム」への積極的な参加を促した。新居浜工業高等専門学校とは、日常的に情報共有を行い、研究指導を受けた。愛媛県総合科学博物館には、課題研究のアドバイザーを依頼し、研究の内容や方向性について指導・助言をいただいた。また、文型・理型それぞれに「プレゼンススキルアップ講座」を設定し、専門の講師による的確なアドバイスをいただいた。

(3) 県外の大学・研究機関との連携

1・2年生の希望者を対象に、最先端の研究・技術開発の現場を見学させるとともに、研究者・技術者及び本校卒業生との交流を図った。関西研修では京都大学等と、関東研修

では筑波大学、東京理科大学等と連携し、SDGsの視点を踏まえた科学研修を実施した。その他、大学・研究機関の研究者による出前講座を実施し、生徒の進路意識を高めるようにした。

(4) 海外の大学・教育機関との連携

昨年度に現地研修を行ったハワイのワイパフ高校に今年度は本校を訪問していただき、課題研究を通して意見交換を行うなどの研修を行った。科学部が商業科と連携して取り組んでいる人工輝安鉱の研究を含む多くの課題研究に参加していただき、活発に意見交換することで、互いの課題研究のブラッシュアップにつながった。

4 研究開発単位3 「『質を高める取組』の充実と『地域発着』拠点としての役割の拡大」

(1) 国際文理科を対象とした「質を高める取組」

1年生のデータサイエンス学習において高度な授業内容の構築を目指し、ALTとの連携による英語での授業を複数回実施した。また、2年生では理科と英語科が連携した科学英語を用いた授業に取り組んだ。3年生では、生徒によるオールイングリッシュの課題研究発表会を行った。国際文理科の全学年が一堂に会し、本校を訪問していたアメリカ・ジョージワシントン高校の生徒15名から英語で多くの質問を受けるなど、意義深い発表会となった。また、積極的に科学系コンテストに取り組んだ。

理数科生徒を教師役として、普通科生徒を指導する「アドバンス科学講座」を実施した。今回の講座に参加した教師役の理数科2名のうち1名が、生徒役で参加した普通科の生徒30名のうち半数以上が国公立大学の総合型選抜、学校推薦型選抜を受験した。口頭試問、グループディスカッション、面接といった他者と協働する力や科学的に探究する力をアピールする入試方式を選択したことは、この講座の作用の一つであったと考えられる。

(2) 「地域発着」拠点としての役割の拡大

本校生徒による出前授業を地域の小中学生を対象に複数回実施した。課題研究発表会は、地域の高等学校と中学校に加え、連携先関係者と西条市民に広く公開した。さらに、西条市長及び関係部署課長に対してプレゼンテーションする機会を設けるなど、地域のステークホルダーに研究成果を積極的に紹介し、連携を深めた。また、多くの成果物を「SAIJO BASE」の市民ギャラリーで1か月間展示し、広く市民に見ていただいた。2月の成果報告会では、本校作品のみならず、西条市内4高校や松山南高校・宇和島東高校の作品などを展示し、SSHの愛媛県東予地区の「拠点」としての役割を果たした。

⑤「研究開発の成果」について

1 生徒の変容

(1) 入学生の変容

入学生とその保護者及び中学校教員に対して実施したアンケート調査の結果から、本校がSSH指定校として広く認知されていることが分かった。「あなたが西条高校を選んだ理由は何ですか」という質問に対して、国際文理科の入学生は「SSHの指定校だから」と答えた生徒が3年連続で40%を超えた。（関係資料③-6-(3)）また、同じ質問を保護者に伺ったところ、普通科と国際文理科の保護者の30%以上が「SSHの指定校だから」と回答したことから新入生・その保護者共に「西条高校がSSH指定校であること」を好意的に捉えていることが分かる。（関係資料③-6-(4)）また、地域中学校の教員に伺ったアンケートでは、西条高校のイメージに関する質問では「SSH指定校」が83%、生徒が西条高校を志望する理由については「SSHの指定校だから」が60%となっており、Ⅱ期目以降、SSHとしての認知度が顕著である。（関係資料③-6-(5)）

(2) 2年生の変容

理型が先導する形で、全学科を通して取り組んでいる課題研究であるが、文型の研究の質も向上しており、文理問わず多くの課題研究がコンクールへの入賞、発表会への参加を

果たした。

(3) 3年生の変容

コンテストに積極的に応募する姿勢が定着し、SDGs系のコンテストに理型の作品が複数入賞したり、文型・商業科からも受賞者が見られたりするなど、質の向上が顕著であった。また、総合型選抜や学校推薦型選抜を受験する生徒の中に、実績として課題研究の取組を加算材料としたり、受験科目にプレゼンテーションが課される入学試験に取り組んだりする生徒が多くなったのも特徴である。「AiGROW」評価によれば、I期と比較して顕著に伸長している学年である。上述のような取組が増えたのも、体系的に3年生の取組を見直した結果であると思われるが、授業時間も限られていることから、より効率の良い組織的な取組が求められる。

2 教師の変容

本校教員に実施したアンケートによれば（関係資料③-6-(2)）、「教育活動全般に有意義になっている」や「本校の魅力向上」「探究する力の向上」など、生徒の資質向上につながる要素が毎年高い数値となっている。「本校の魅力向上」という点では、本校といえはSSHという認識が定着し、本校を志望する中学生や地域全体にも浸透しているといえる。また、「探究する力の向上」は、生徒全員が課題研究に取り組む体制が、学校全体として探究活動に取り組む流れにつながっている。「問題解決に取り組む生徒の育成」についても、1年次の「有法子」から3年次の「マルチサイエンスⅡ」まで、体系的に取り組むカリキュラムがしっかりと機能していると言え、専門講座を中心に幅広い分野にわたって、多くの生徒が様々な経験を積むことができる効果であると考ええる。また、「科学的素養の醸成」が上がっているのは、1年次の「ベーシックサイエンス」の内容をブラッシュアップした効果であると考ええる。

「国際人としてのコミュニケーションスキルの養成」については、これまでの本校SSH事業における課題であったが、2年次での科学英語の実施や、3年次での国際文理科の発表会をオールイングリッシュで継続的にに行っていることが徐々に効果として表れていると考ええる。

また、SSH推進課による組織的な運用を心掛けた結果、「学校全体の取組」と認識する割合についてもその数値が年々増加している。組織的な改善については、年度ごとに改善をし、是正を進めてはいるが、「教員の負担」に関しては横ばいの数値が続く。この点について、11月の中間報告会終了後に実施した教職員アンケート結果によれば、「負担が大きい」と答えた教員が44%だった。そのうち「負担には感じるが、生徒への効果大きい」との回答が94%であった。生徒への良い効果を維持しながらも教職員の負担軽減について検討・改善していくことが強く求められる。

3 学校の変容

各アンケート結果を受け、本校の中学生1日体験学習において、生徒の研究成果を発表できる機会を拡充した。参加した中学生622名を対象に、理科の模擬授業では、自然科学系部員による課題研究発表のほか、中学生と協働して実験体験や実験指導を行った。また、全科目の授業に、在校生が課題研究発表を行う時間を設ける時間を設定したのに加え、探究学習専用講座を設け、特徴ある作品を生徒が発表する機会を増やした。参加した中学校3年生のみならず、引率している中学校教員や保護者などにも見ていただき、本校で行っている課題研究について認識を深めていただく機会となった。

⑥「研究開発の課題」について

1 研究開発単位1 「課題研究を中心とするカリキュラムの研究開発」

理型が先導し、全学科で取り組む課題研究のカリキュラムが定着し、文型にも多くの成果が見られ、様々な機関との連携がなされるようになった。全学科が一堂に会する成果報告会の開催も複数学科を有する本校ならではの取組である。また、今年度は地域課題を共有し、共に解決する力を養うために市内4校とも連携する成果報告会を企画した。課題も多いが、今後も活動の中身をより充実させ、成果物の質も更なる向上が求められる。

1年の「ベーシックサイエンス」には試行段階のものも多いが、多くの実践を積み、得られた内容をホームページで発表するなどして成果の普及に努めたい。また、この時間をSTEAM教育を始めとした教科横断型の授業実践の場として活用する事例も見られた。今後とも積極的に利用していきたい。しかし、教員の負担軽減は依然として大きな課題である。継続して8年実施している研究・事業を今一度見直し、スクラップアンドビルドに努める必要がある。

2 研究開発単位2 「地域及び大学・研究機関との連携による教育プログラムの研究開発」

西条市とは多岐にわたって連携させていただいており、数多くのプロジェクトを成功させている一方で、多大な負担を掛けているのも事実である。西条市と協議を重ね、1・3年生とそれぞれ独立して実施していた講演を一本化したり、市長を前に実施している報告会のスリム化を図るなど、一定の成果を収めた。さらに協議を重ね、内容の精選に努めていきたい。これは他の機関も同様であり、多くの事業や連携を「持続可能」にしていくための精選が必要である。本校が昨年度行った「SAIJO BASE」での1か月展示が運営指導委員の目に留まり、今年度「愛媛大学ミュージアム 次世代人材育成拠点 特別展示企画」が実現し、県内SSH3校を含む高校による成果物展示が行われた。今後とも「愛媛大学」や県内SSH3校との連携を密にして、多くの研究の充実を進めていきたい。

3 研究開発単位3 「『質を高める取組』の充実と『地域発着』拠点としての役割の拡大」

質の高い取組を行ってきた国際文理科の成果を学校全体に還元するために、普通科の生徒と協働するプログラムを今年度も実施した。講師やリーダーとなった生徒がどのような進路を選択し、その後成長していったかを継続的に検証していきたい。科学英語の継続的实施など、成果も多いが、内容の検証・再検討を行い、より良い実践を目指す必要がある。

地域発着を意識した取組において、中学生対象の取組をきっかけに本校を志願し、入学して積極的にSSHの活動に取り組む生徒も多い。一方、小学生への取組は、成果が分かるまでに時間がかかるが、地域に根差した活動ということで、活動の検証を継続していきたい。公式インスタグラムでの情報発信や複数の新聞取材を受けたりするなど、発信・普及する機会に恵まれた。より効果的な発信方法などを考えていきたい。

②実施報告書（本文）
①「研究開発の課題」について

1 研究開発の目的・目標

SDGsの視点に立って、3年間を通して生徒全員に課題研究に取り組ませるカリキュラムの研究開発を行う。また、地域の行政機関や企業、国内外の大学・研究機関等と連携した教育プログラムの研究開発を行い、SDGsの視点を生かした課題研究や科学研修の充実を図る。その成果を広く発信するとともに、地域に貢献し、世界で活躍する生徒の発着拠点、地域の理数教育の拠点としての本校の役割を広げる。

2 研究の仮説

(1) 研究開発単位1「課題研究を中心とするカリキュラムの開発」

SDGsの視点に立って、I期目に開発した課題研究のカリキュラムを充実・発展させることで、科学技術イノベーションを担い、地域に貢献し、世界で活躍できる生徒が育成できる。

(2) 研究開発単位2「地域及び大学・研究機関との連携による教育プログラム」

I期目に開発した校外諸機関との連携による教育プログラムを充実・発展させるために、西条市及び地域や国内外の大学・研究機関と連携し、SDGsの視点に立って、科学研修や課題研究への支援の充実を図る。これにより、SDGsの達成に向けて科学技術イノベーションを担い、地域に貢献し、世界で活躍できる生徒が育成できる。

(3) 研究開発単位3「『質を高める取組』と『地域発着』拠点としての役割の拡大」

国際文理科を中心に、科学や探究学習に強い興味・関心を持つ生徒に対してより高度なプログラムを提供し、今後の研究意欲を高める。また、地域の多様なステークホルダーに対して本校の研究成果を積極的に還元することで、SDGsの達成に向けて科学技術イノベーションを担い、地域に貢献し、世界で活躍する生徒の発着拠点、地域の理数教育の拠点校としての役割を広げることができる。

3 研究開発実践の概要

(1) 研究開発単位1「課題研究を中心とするカリキュラムの開発」

ア 学校設定科目「有法子」（1年生全員対象・1単位）

1学期から2学期前半にかけて、「西条市SDGsモデル事業」における三側面（経済・社会・環境）の地域課題について西条市職員の講義を受講させ、課題解決に向けた研究計画を立案させる。2学期後半以降は、それまでの学習を踏まえて、地域課題の解決に向けた「プレ課題研究」に取り組ませる。それぞれの学習成果について、適宜発表会を実施し、課題解決に向けて意欲を高めるとともに、プレゼンテーションスキルの向上を図る。

イ 学校設定科目「ベーシックサイエンス」（1年生全員対象・2単位）

理科分野の内容と情報分野の内容を並行して学習させる。理科分野では、各科目の探究活動を行い、実験の意義と課題の考察、課題解決のための仮説及び実証実験計画の立案、実証実験の実施を通して実験をデザインする力を養う。情報分野では、データサイエンスの手法を取り入れ、「RESAS」や「e-Stat」を用いてデータのグラフ化する力や統計的な見方を養う。運営は、教科「情報」及び学校設定科目「有法子」と連携させる。

ウ 学校設定科目「マルチサイエンスⅠ」（2年生全員対象・2単位）

「有法子」「ベーシックサイエンス」の学習を踏まえて、SDGsの視点に立って、課題研究に主体的に取り組ませる。研究テーマの設定では、ブレインストーミングの手法を用いるなど、生徒主体の取組を促す。研究過程では、大学、高等専門学校、研究機関、行政機関等と連携する。

エ 学校設定科目「マルチサイエンスⅡ」（3年生全員対象・1単位）

SDGsの視点に立って、「マルチサイエンスⅠ」に引き続いて課題研究に取り組ませ、研究の質を高める。また、課題研究の成果を各種コンテストへ応募させるとともに、プレゼンテーションスキルのブラッシュアップを図り、進路実現につなげる。また、国際文理科は英語に

よる課題研究発表会を開催し、科学英語のスキル向上を図るとともに、研究成果を広く発信する。

(2) **研究開発単位2** 「地域及び大学・研究機関との連携による教育プログラム」

ア 地域との連携

西条市との連携では、「有法子」前半の学習において、西条市職員による地域課題についての講義を実施する。また後半の「プレ課題研究」において、西条市各課より担当者を招き、研究テーマに関する生徒取材の場を設定する。「マルチサイエンスⅠ」でも西条市各課と連携し、生徒が授業中に直接出向いて取材する機会を適宜設け、研究内容の充実と研究意欲の向上を図る。「西条市SDGs推進協議会」との連携では、協議会に参加する先端企業等の見学会及び技術者や起業家等によるSDGsの視点を踏まえた出前講座を、オンラインを含めて実施する。科学系部活動やその他の活動でも企業等と連携した研究に取り組み、研究内容の充実と研究意欲の向上を図る。

イ 地域の大学・研究機関等との連携

愛媛大学のSDGs推進室、データサイエンスセンター、地域協働センター西条等と連携し、SDGsの視点を踏まえた講義、実験、実習等の科学研修を実施する。また、愛媛県総合科学博物館や愛媛県総合教育センターとも連携し、科学研修の充実を図るとともに、課題研究の内容や方向性について指導・助言を受ける。

ウ 県外の大学・研究機関等との連携

1、2年生の希望者を対象に、最先端の研究・技術開発の現場を見学させるとともに、研究者・技術者及び本校卒業生との交流を図る。事前研修を行い、現地研修の充実を図る。状況によっては、オンライン研修で代替する。適宜報告会を設け、研修の成果を他の生徒と共有させる。

エ 海外の大学・研究機関等との連携

昨年度に本校が現地訪問し研修を行ったハワイ・ワイパフ高校が今年度は本校を訪問し、校内で研修を実施する。このように隔年などで相互訪問するなど、持続可能な海外研修を企画する。また、イギリスのキャリーウィズカレッジとのオンライン合同研究を継続して行う。

(3) **研究開発単位3** 「『質を高める取組』の充実と『地域発着』拠点としての役割の拡大」

ア 国際文理科を対象とした「質を高める取組」の試行

1年生では、「ベーシックサイエンス」におけるデータサイエンス学習等において、より高度な授業内容を構築する。2年生では、授業改善の取組として、理科と英語科が連携して科学英語を用いた授業に取り組む。これらの取組を踏まえて、高度な課題研究に主体的に取り組ませ、科学系コンテストにも積極的に応募させる。また、「マルチサイエンスⅡ」研究発表会は、オールイングリッシュで実施する。大学や企業の研究者の出前講座や企業見学会をはじめ、科学研修に積極的に参加させ、主導的な役割を発揮させる。

イ 「地域発着」拠点としての役割の拡大

SSH事業や探究学習の成果を基に、生徒による地域の小学生や中学生を対象とした出前講座を開催する。これにより、本校での学びに向けた意欲を高めさせる。また、授業改善の取組や課題研究の発表会を公開し、地域の高等学校、中学校の教員に参観を求める。特に、課題研究の発表会では、地域の連携先関係者にも公開する。また、「探究学習に関する意見交換会」を実施し、各校との取組の交流を図る。さらに、西条市長及び関係部署課長にプレゼンテーションする機会を設けるなど、地域のステークホルダーに研究成果を積極的に紹介し、地域との連携を深める。

②「研究開発の経緯」について

1 研究開発単位1 「課題研究を中心とするカリキュラムの開発」

月	日	対 象	項 目	研 究 開 発 内 容
通 年		関係教員	「有法子」打合せ会（担任会）	「有法子」
通 年		関係教員	「マルチサイエンスⅠ」打合せ会	「マルチサイエンスⅠ」
4	14	教 員	S S H研修会	S S H事業全般
4	14～18	1 年生	「ベーシックサイエンス」ガイダンス	「ベーシックサイエンス」
4	15～18	2 年生各講座	「マルチサイエンスⅠ」ガイダンス	「マルチサイエンスⅠ」
4	17	3 年生各講座	「マルチサイエンスⅡ」ガイダンス	「マルチサイエンスⅡ」
4	24	1 年生	「有法子」ガイダンス	「有法子」
6	13・19	3 年生	「マルチサイエンスⅡ」研究発表会	「マルチサイエンスⅡ」
7	4	2 年生A～D講座	研究経過報告会	「マルチサイエンスⅠ」
7	10	1 年生	「有法子」クラス発表会（社会）	「有法子」
10	23	1 年生	「有法子」クラス発表会（環境・経済）	「有法子」
10	30	1 年生	「プレ課題研究」ガイダンス	「有法子」
11	10	1・2 年生	「マルチサイエンスⅠ」中間発表会	「マルチサイエンスⅠ」
2	5	1 年生	「有法子」研究発表会	「有法子」
2	10	生徒・教員	S S H研究成果報告会	「マルチサイエンスⅠ」、事業全般
2	19	1 年生	「マルチサイエンスⅠ」ガイダンス	「有法子」

2 研究開発単位2 「地域及び大学・研究機関との連携による教育プログラム」

月	日	対 象	項 目	主な研修先や連携先等
7	18	2・3 年生希望生徒	第1回企業見学会	四国電力本川水力発電所
7	23	3 年生	西条高校SDG s 研究成果報告会	西条市長・西条市（幹部職員）
8	5～7	1 年生希望生徒	関西研修	京都大学・理化学研究所
8	24・25	1～3 年生希望生徒	サイエンスキャンプ2024	京都大学（千町のフィールドワーク）
9	18	3 年生希望生徒	第1回専門講座	A k i' s K I T C H E N 株式会社アドバンテック
10	9	3 年生希望生徒	第2回企業見学	株式会社サイプレス・スナダヤ
10	9	3 年生希望生徒	第2回専門講座	CREW TAMBARA
10	10	1・2 年生	ハワイ・ワイパフ高校との研修	ワイパフ高校
12	20・21	2 年生希望生徒	関東研修	東京理科大学 国際フォーラム 他

3 研究開発単位3 「『質を高める取組』の充実と『地域発着』拠点としての役割の拡大」

月	日	対 象	項 目	主な連携先
6	13	1～3 年生国際文理科	「マルチサイエンスⅡ」研究発表会	本校
6	13	2 年生国際文理科	科学英語	本校ALT
7	30	2・3 年生	西条高校1日体験入学	市内中学校3年生
8	1	科学部・商業科	小学生出前講座	神拝公民館・市内小学生
8	6・7	2 年生国際文理科・普通科	S S H生徒研究発表会	J S T
9	18・26	2 年生	プレゼンスキルアップ講座	愛媛大学・愛媛県総合科学博物館
10	30	3 年生希望生徒	アドバンス科学講座	本校
11	10	本校教員	探究学習に関する意見交換会	県内教員

③ 「研究開発の内容」について

研究開発単位 1 「課題研究を中心とするカリキュラムの研究開発」

1 学校設定科目「有法子」（1年生全員対象・1単位）

(1) 仮説

西条市役所と連携し、SDGsの3側面（経済・社会・環境）に基づいた講演と研究計画の立案、発表会、評価に取り組む。これにより、地域社会の課題意識を養い、自分でテーマを設定する力を育成する。「ベーシックサイエンス」と連携し、知識や情報をデータ化して発表する技術を獲得させることができる。昨年度より、新教育課程実施により、2単位から1単位になった。従来の4領域からSDGsの3側面に構成し直して講演を行うなど、内容の精選と効率化を行うことで、授業の質を向上することができる。

(2) 研究内容及び方法

ア 教育課程編成上の位置付け

この科目では、2年次の「マルチサイエンスⅠ」（課題研究）に取り組むための「課題発見力」を主に育成する。教育課程上の特例等は、「**①**令和7年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）」に述べたとおりである。

イ 令和5年度の年間授業指導計画

(ア) 探究学習「西条市の課題」の実施内容

4月	ガイダンス	「西条市の課題」 テーマ 西条市の課題について 西条市役所 政策企画課 矢野 有紗 氏
5月	講演 (防災)	「防災」 テーマ 西条市の地域課題と現状 西条市役所 経営戦略部 危機管理課 深見 聡志 氏
	講演 (医療)	「医療」 テーマ 西条市の医療環境と地域医療への取組 西条市役所 健康医療推進課 伊藤 優介 氏
		振り返り ミニレポート作成
6月	ガイダンス	研究計画ガイダンス・研究計画
7月	発表会	1回目クラス発表会
		「AiGROW」による自己評価・他者評価

表 1－1 1学期の実施授業

9月	講演 (国際) (地域)	「国際」 テーマ 西条市における多文化共生のまちづくり 西条市役所 観光振興課 村上 桜 氏
		「環境」 テーマ 経済の視点から考える地域活性化 西条市役所 産業振興課 星加 あかり 氏
		振り返り ミニレポート作成
10月	発表会	課題研究 2回目クラス発表会

表 1－2 2学期の実施授業

(イ) プレ課題研究の実施内容

11月～	プレ課題研究	プレ課題研究ガイダンス
		プレ課題研究 「AiGROW」による自己評価・他者評価
1月	プレ課題研究	プレ課題研究
		クラス発表会
2月	発表会	「有法子」発表会
		振り返り、コンテスト応募
3月	ガイダンス	「マルチサイエンスⅠ」に向けて

表1－3 2・3学期の実施授業

(3) 検証

ア 授業内容の精選と運営上の工夫

「有法子」を経験した教員が増えてきたことで、目的や成果を意識した助言や指導が行われるようになった。有法子を初めて指導する教員に対して、指導経験者の教員が適切に情報共有することで、教員間の連携が取れるようになった。その結果、生徒は目的意識を持って活動するようになり、主体的に講演を聞き、プレ課題研究に取り組むなど、意欲的な活動につながった。また、プレ課題研究のクラス発表会に、「有法子」を経験した上級生からアドバイスをいただく時間を設けた。さらに、9月の「経済」「環境」の2講座は、事前にグループごとにアンケートを取り、1時間に同時開講されている2講座のうち、生徒は希望する講座のみを聞くようにした。以前は、生徒全員に対して、各20分で2講座実施していたが、それぞれの内容が多いにもかかわらず時間の制約により十分に情報を伝えることができていなかった。生徒・講師双方から改善の要望があったため、今回の形式とした。これにより、生徒が自主的にテーマを選ぶことができる利点と講演回数の減少及び講座内容の充実を可能とした。

イ 「ベーシックサイエンス」、教科「情報」との連携

「ベーシックサイエンス」や教科「情報」で身に付けた、「RESAS」や調査結果等のデータを分析し、図表やグラフで分かりやすくまとめる技能を「プレ課題研究」のポスター作成に生かすことができた。個々の情報処理力が向上したことで、グループの協働が進み、作業時間を軽減できた。

ウ 今後の課題

引き続き教材の精選に取り組み、学習の質と効率を高める必要がある。連携先である西条市役所の負担が増えないよう、やり取りの方法や依頼内容の精選も必要である。また、「ベーシックサイエンス」や教科「情報」との連携を深め、計画的に運営していきたい。

2 学校設定科目「ベーシックサイエンス」（1年生全員対象・2単位）

(1) 仮説

国際文理科のベーシックサイエンスについて、英語を用いた理科の授業の新規開発により、生徒の興味・関心を高められる。

また、海外の高校生の受け入れに必要な英語を用いたベーシックサイエンスの授業教材の新規開発と実践を通して、国際性を高めつつ理科に対する興味・関心を高められる。

表2—1 令和7年度のベーシックサイエンス実施状況（太字・下線部が新規開発）

科目	有法子	ベーシックサイエンス（理科）	ベーシックサイエンス（情報）
資質・能力	課題発見力	研究構想力	
4月	ガイダンス	ガイダンス	
5月	講義「経済」 「社会」	【仮説・実験計画の立案】 ・物理、化学の探究活動 ・プレゼンテーション資料作成 ・ <u>国際文理科（質を高める取組）英語を用いた化学分野の授業</u>	【データの視覚化と情報デザイン】 ・情報デザイン ・「RESAS」を用いたグラフ作成と統計的な見方
6月	研究計画ガイダンス 研究計画発表会		
7月			
9月	講義「環境」	【実験技能の習得と実験データの解析】 ・生物・地学の探究活動 ・プレゼンテーション資料作成 ・ <u>国際文理科（質を高める取組）英語を用いた生物分野の授業</u>	【データ活用法の習得】 ・表計算ソフトの活用 ・様々なグラフの作成 ・統計的なデータ分析
10月	研究計画発表会		
11月	プレ課題研究		
12月			
1月			
2月			
3月	振り返り	振り返り	振り返り

(2) 研究開発内容・方法

ア 化学分野の教材開発とその実践

(ア) 学習内容

これまで開発してきた氷の溶解に関する化学分野の探究実験を基盤として、英語の実験教材を作成した。本授業では、オレンジジュースの中の氷が溶解しにくいことを実験を通して理解させ、その現象に対して仮説検証に取り組ませることを目標とした。

(イ) 実施日時と対象生徒

6月13日 国際文理科の1年生40名

イ 生物分野の教材開発と海外の高校生（ハワイ・ワイパフ高校）受け入れ

(ア) 学習内容

細胞膜と浸透圧に関する生物分野の探究実験をもとに、英語の教材を作成した。本授業では、昨年度に海外研修で連携したハワイのワイパフ高校の来校を契機に、海外の高校生

の受け入れを前提にした新規教材開発を目指した。顕微鏡を用いて得られた細胞の実験結果をもとに、実験に用いた水溶液の濃度を班別に協議して仮説検証に取り組ませた。

(イ) 実施日時と対象生徒

10月10日 国際文理科の1年生40名 および ハワイのワイパフ高校生徒10名

(3) 検証

ア 化学分野の教材開発とその実践

氷の実験に関する英語のスライドおよび教材を作成し、本校ALTと協働して授業に取り組んだ(図2-2)。ベーシックサイエンスの化学分野としては、初めての英語を用いた実験教材の開発に成功した。また、多くの生徒が積極的に授業に取り組んでいた様子が分かった。

今後は、まだ教材開発できていない物理分野での英語の教材開発に取り組む予定である。



図2-2 ALTによる授業の様子



図2-3 実験中の生徒の様子

イ 生物分野の教材開発と海外の高校生(ハワイ・ワイパフ高校)受け入れ

本校生徒とハワイから来校したワイパフ高校の生徒の混成で班編成を行い、班別協働学習に取り組ませた(図2-4)。生徒同士が活発に議論し、国際性を高めつつ生物分野に対する興味・関心が高まる様子が観察できた。なお、本実験で用いたユキノシタは連携先のハワイで観察できない植物であり、ワイパフ高校の生徒はとても興味深く観察していた。連携先の環境に応じて実験教材を選定する重要性を学んだ。



図2-4 授業の様子

さらに、開発した学習教材例を示す。このように、オールイングリッシュの英語教材に合わせて、日本語と英語を併用した授業スライドを作成した。これらを授業で実践することで、ベーシックサイエンスの授業の中で海外の生徒と協働して探究的な実験に取り組むモデルケースの授業を確立できた。

Basic Science (Biology)		October 10th (Friday)
Under what conditions does plasmolysis occur?		
Lesson goals	Plant cells are immersed in solutions of various concentrations to examine the relationship between the concentration of the external solution and osmosis.	
Preparation	Saxifrage, Sucrose aqueous solution (5%, 10%, 20%), Distilled water, Tube bottle, Microscope	
【Consider the concentration of solutions A to D!】		
Method	1. Peel off the underside of the saxifrage leaves with tweezers and immerse them in one of the tubes A to D for about 5 minutes. 2. After 5 minutes of soaking, each sample is examined under a microscope. (When preparing the glass slide, care is taken to prevent the leaves from wrinkling, and the solution in which the leaves were immersed is dropped onto the glass slide for observation.) 3. The concentrations of A to D are determined based on the state of the cells.	

目標(Lesson goals)

植物細胞をいろいろな濃度の溶液に浸して、外液の濃度と浸透との関係を調べる。

Plant cells are immersed in solutions of various concentrations to examine the relationship between the concentration of the external solution and osmosis.

図2-5 英語を用いたベーシックサイエンス(生物分野)の開発教材

3 学校設定科目「マルチサイエンスⅠ」（2年生全員対象・2単位）

(1) 仮説

これまで実施してきた内容を生かして、全ての教科が実施計画や指導方法を共有できる体制をさらに整えることにより、生徒全員が課題研究に取り組む体制を充実させることができる。

この科目で重点をおいて育成を目指す資質・能力を「研究実践力」「イノベーション力」として整理・明確化した。Ⅱ期目では、テーマ設定や研究活動がこれまで以上に生徒主体の取組となるように指導することにより、上記の資質・能力を育成できると考えた。

(2) 研究内容・方法

ア 教育課程編成上の位置付け（関係資料③-1 参照）

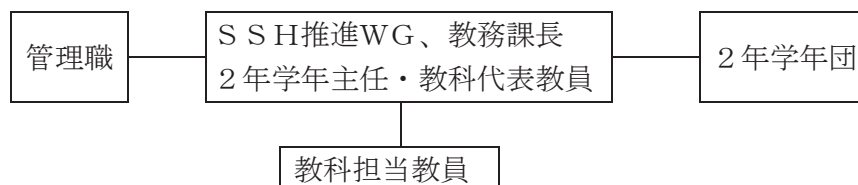
イ 年間計画の概要

月	主 な 学 習 活 動
4	ガイダンス、グループ編成
5	テーマ設定、研究活動
6	研究活動
7	研究経過のまとめ、研究経過報告会
9	研究活動

10	研究活動、中間発表まとめ、発表準備
11	中間発表準備、中間発表会、研究活動
12	研究活動
1	研究のまとめ、研究発表準備
2	研究発表準備、研究発表会
3	「マルチサイエンスⅡ」に向けて

ウ 指導体制

(ア) 運営組織



(イ) プレゼンスキルアップ講座（文型：9月30日7限、理型：9月26日6限 体育館）（図3-1・2）

- ・ 文型講座：愛媛大学社会共創学部准教授 井口 梓 氏（SSH運営指導委員）
- ・ 理型講座：愛媛県総合科学博物館学芸課長 久松 洋二 氏（SSH運営指導委員）



図3-1 文型プレゼンスキルアップ講座



図3-2 理型プレゼンスキルアップ講座

（スキルアップ講座受講後の生徒の感想）

- ・ 文字のフォントや大きさ、文字数、表の示し方や話し方など、自分が無意識にやっていることが分かりにくいプレゼンテーションを作る原因になっていたと分かった。
- ・ 何を言いたいのかを明確に決めてポスター作成しなければならないと強く感じた。これからのマルチサイエンスⅠの時間を有意義に使って研究をまとめていきたい。

エ 研究活動

(ア) 文型課題研究（A、B講座）の特徴的な取組

A、B講座は、国語（7名）、地歴公民（8名）、保健体育（4名）、芸術（2名）、英語（6名）、家庭（1名）の教員が、26グループを指導した。今年度は特に新たな連携先を多く結ぶことができ、文型の課題研究の深化につながった。

(イ) 理型課題研究（C、D講座）の特徴的な取組

C、D講座は、数学（6名）、理科（9名）の教員が、26グループを指導した。今年度新たに、文型班と共同研究を進めるグループが見られ、課題研究の連携を深めることができた。特に数学・情報班と地歴班で新たな連携先が見られた。

オ 研究成果の発表

(ア) 研究経過報告会（7月4日 本校 各教室）

愛媛県総合教育センターから2人の指導助言の先生方をお迎えし、報告会を実施した。生徒たちは緊張した面持ちであったが、研究内容の仮設、研究計画について熱心にプレゼンテーション発表を行っていた。また、生徒間での質疑応答も活発に行われ有意義な時間となった。（図3-3・4）



図3-3 物理班による発表の様子



図3-4 英語班による発表の様子

(イ) 中間発表会（11月10日 本校 各教室）

今年度は、生徒に自分の研究分野以外の発表を聞く機会を設けるために、文型では各教科をクロスさせ、理型は物理・化学・生物・地学・数学をクロスさせて同じ会場で発表していく形にした。また、理数科の成果・普及を目標とし、C講座（理数科の生徒）とD講座（普通科理型の生徒）を同一会場で発表するように変更した。他分野の研究発表を聞いたり、質疑応答を活発に行ったりすることで、生徒同士で各班のプレゼンの振り返りができ、いかに相手に分かりやすい説明をするか、発表内容を再構築する班も多数見られるなど良い効果が見られた。

(ウ) 研究成果発表会：ポスター発表（2月10日 西条市総合文化会館）

昨年度の発表者と聴衆者のバランスを見直し、2グループの研究を2回発表することとした。また、商業科もポスターセッションに加わり、聴衆者としても商業科と普通科が交互となるように工夫した。さらに今年度は、県内の他のSSH指定校2校と市内の4高校へ参加を呼び掛けたところ、5校が当日のポスター発表に参加、残りの1校もポスター展示参加となった。学校間の垣根を越えた交流ができ、生徒たちにとっても他校の優れた発表を聞くことで、良い刺激となった。また、市内の学校に勤務する外国語指導助手も参観していただき、英語班のオールイングリッシュの発表を聞いていただき、質疑応答も全て英語で行うことができ、大変有意義なものとなった。（図3-5）

発表会場には、2年生の発表ポスターだけでなく、1年生が作製したプレ課題研究のポスターも一緒に展示したことで、発表会全体に一体感が生まれた。（図3-6）これらのポスターは、他校の作品も含めてSAIJO BASE 3階の「市民ギャラリー」に2週間展示をさせていただくことにした。保護者や地域の方に対して本SSH事業の発信・普及に向けての効果が期待できると考えている。



図3-5 ポスター発表の様子

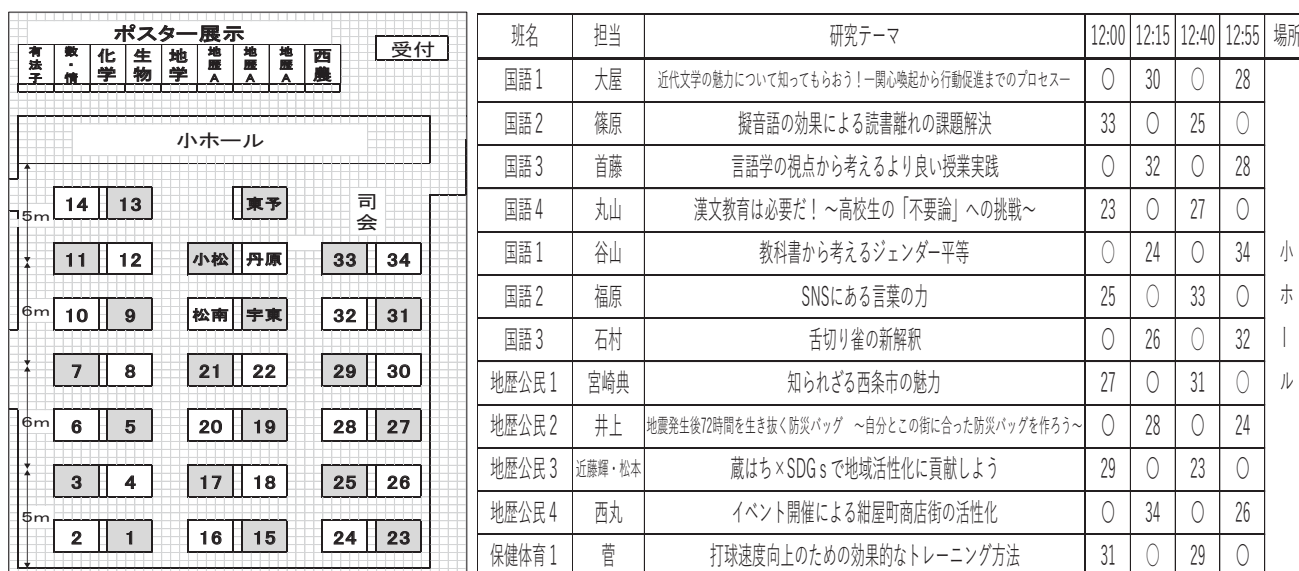


図3-6 ポスター発表の配置図と発表生徒のタイムスケジュール（抜粋）

(エ) 研究成果発表会：ステージ発表（2月10日 西条市総合文化会館）

ステージ発表では、マルチサイエンスⅠのA～E講座から6班を選出し、発表7分、質疑応答3分の計10分で実施した。（図3-7）

発表後の質疑応答は、2年生だけでなく、1年生や他校の生徒からも手が挙がり、積極的

な意見交換が行われていた。発表班は自分の研究内容を十分に理解し、質疑応答に誠実に精一杯対応しようとしていることが感じられた。(図3-8)



図3-7 ステージ発表の様子



図3-8 質疑応答の様子

(3) 検証

研究成果報告会実施後に行った生徒意識調査(関係資料③-6-(1))では、マルチサイエンスⅠに取り組んだ2年生の全ての数値が1年前より向上していた。特に、「学んだことを応用することに対する興味が増した」「課題研究に積極的に取り組んでいる」「課題研究は有意義な学習である」「課題研究は面白い」がそれぞれ0.2ポイント上昇しており、課題研究を通して、探究活動に対してより好意的な態度が育成できたことが伺える。「周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた」と「粘り強く取り組む姿勢が身に付いた」も、それぞれ昨年より0.2ポイント上がっていることから、探究する力も向上していると考えられる。

また、成果報告会を参観した1年生は、上級生の発表を見て、先輩をモデルとすることで、研究手法や発表の仕方などを学ぶことができたと考えられる。このように、先輩から後輩へノウハウを引き継いでいくことが、SSH事業をより豊かにするために不可欠であると確信し、今後も事業運営を続けていきたい。

4 学校設定科目「マルチサイエンスⅡ」（3年生全員対象・1単位）

(1) 仮説

「マルチサイエンスⅠ」で取り組んだ課題研究の質の向上を図り、その成果を各種コンテスト等に積極的に応募する。国際文理科を中心に英語で研究成果を発信する機会を設け、コミュニケーション能力を高める取組についても引き続き研究する。これらを通して、3年間の課題研究の成果を進路実現に生かす取組が進められると考えた。

(2) 研究開発内容・方法

ア 教育課程編成上の位置付け

学校設定科目「有法子」（1単位）、「基礎科学セミナー」（2単位）の学習等を通して、1年生で身に付けた知識やスキルを基に、「マルチサイエンスⅠ」（2単位）で2年生全員に課題研究に取り組ませる。「マルチサイエンスⅡ」（1単位）では、3年生全員に引き続いて課題研究に取り組ませ、総合力を身に付けた「マルチリーダー」の育成を図る。

イ 年間指導計画

学 期	主な学習活動	学 期	主な学習活動
1 学期	・研究レポートの作成	2 学期	・各種コンテスト応募の準備
	・各種コンテスト応募の準備	3 学期	・専門講座
	・グループ発表準備・発表 (国際文理科は英語による発表)		・進路実現に向けた研究レポートの作成等
	・専門講座		

ウ 実施内容

(ア) 指導体制・運営上の工夫

1学期は、「マルチサイエンスⅡ」の活動を充実させるために小集団の活動を継続させ、原則「マルチサイエンスⅠ」の担当者が学年団と連携して指導に当たった。人事異動に伴い担当者が不在の場合は、同じ教科・科目の教員がフォローすることとした。国際文理科は、教科・科目教員と担任、英語科教員が連携し、2年生で取り組んだ課題研究を英語で発表する活動に取り組ませた。他のグループも、文理共に継続研究の成果をプレゼンテーションソフトを用いて発表した。2学期以降は課題研究の成果を生かした進路実現を支援する取組を行い、学年団を中心に課題研究担当者と連携して指導に当たった。授業運営では、専門講座を1・2学期に4講座設けることで、専門分野への理解を深めるとともに、学びに対する意欲も高めている。

また、中学生1日体験入学の全ての授業体験講座の中に課題研究発表の機会を設け、中学生に対してプレゼンテーションを行い、SSH事業の成果の普及を図った。中学生からは入学後に取り組む課題研究へのイメージを具体的なものにすることができたという感想が得られた。生徒たちも、対象に合わせて発表の仕方を工夫することの大切さを学び、質疑応答にもしっかりと対応することができた。（図4-1）



図4-1 中学生1日体験入学でのプレゼンテーション

(イ) 国際文理科の研究成果発表会

国際文理科では、2年次に取り組んだ課題研究を発展させ、その成果を基に全ての研究グループが英語で研究概要(Summary)をオールイングリッシュで発表する機会を設けた。担当教科と英語科が連携し、5月29日に4グループ、6月4日に4グループに発表させた。6月13日には研究成果発表会を英語による研究発表7分+質疑応答3分で実施した。また、1・2年生の国際文理科の生徒をフロア生徒として見学させるるとともに、西条市を訪問中のジョージワシントン高校生15人にも参観していただき、質疑応答が活発なものとなった。

(エ) 専門講座

以下のような日程で、専門講座を実施した。

月 日	講演タイトル	講師名
9月18日	「子どもも大人も一緒に学び合う地域活動を始めます」	AKI' s KITCHEN 高田 裕明 氏
	「西条から世界を目指して挑戦し続ける未来」	株式会社アドバンテック 門脇 聡子 氏
10月9日	「農村たんばらの風景と営みを100年後につなぐ挑戦」	CREW TAMBARA 金光 史 氏
	サイプレス・スナダヤ工場見学	株式会社サイプレス・スナダヤ

生徒たちは、進路希望や興味に合わせて講座を受講した。地域の方からの生の声を聞けることは貴重な経験であり、講師指導の下グループワークを行うことで、地域課題解決のための具体的なイメージを掴むことができたようである。(図4-2)

専門講座は連携先の市役所からの要望により、昨年度よりも回数を減らしての実施となった。それを補うために、希望者には1年生の「有法子」の講演会に参加をさせた。事前にテーマに関する質問をとりまとめ、講師の方に文章で回答していただいた。また、総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試の志望理由をまとめる際、講師のプレゼンテーション資料を見直したり参考にしたりする生徒が多いため、講師からいただいた資料は随時「Teams」上に保存して、参照できるようにした。

生徒の主な感想を以下に記す。

(9月地域講座)

自分から何かを得ようとしなければ、社会の変化についていけないという言葉が印象的だった。主体的に行動して、自ら課題を発見して解決するための手段を身に付けたい。

(10月地域講座)

西条市の未来は、自分達でいくらかでも明るくできる可能性があると感じた。地域おこし協力隊として西条市に来た方が西条市をどのように見ている、どうやって地域課題に取り組んでいるのかが分かり、参考になった。

(10月理型講座)

大阪万博の大屋根リングにも使われているCLTという素材を西条市の会社が取扱っていることに驚いた。BtoB企業という概念も知らなかったため、非常に勉強になった。



(3) 検証

専門講座については、講師にとって負担が大きく、昨年度に比べて実施回数を減らしての実施となったが、専門講座の受講をきっかけにボランティア活動に参加したり、進路実現につなげた生徒もいた。来年度以降は実施方法を再検討し、更に充実した取組にしていきたい。

国際文理科の研究発表会は全て英語で行うというあえて高いハードルを設けることで、学科全体の意識や質の向上に貢献している。また、3年生の発表を1・2年生に聞かせることで、次は自分たちが担うとの機運を高めるよい機会となっている。一方で、研究概要(Summary)の指導が特定の教員に偏るという課題が残ったので、「マルチサイエンスⅠ」から「マルチサイエンスⅡ」にスムーズに移行できるよう、担当教員との連携をより強めていく必要がある。

3年生にとっては進路実現が最終目標となるため、昨年度以上に各種コンテストの応募に力を入れた。研究内容も評価をされ(関係資料③-7)、質も向上している。また、「マルチサイエンス」の取組を生かして総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試に挑戦しようとする生徒も増えた。一般入試においても高校生活で取り組んだことを出願書類にまとめる場合も増えてきているため、進路実現の面においても、今後ますます「マルチサイエンス」の果たす役割は大きくなっていく。どのような入試においても「マルチサイエンスⅠ」の担当教員が出願時の指導に関わることができる体制づくりやそのバックアップ体制を構築していきたい。

④ 「研究開発実施上の課題及び今後の研究開発の方向性」について

1 研究開発実施上の課題

(1) 研究開発単位 1 「課題研究を中心とするカリキュラムの開発」

I 期で確立された全校生徒で取り組む課題研究のカリキュラムが、教職員・全校生徒により定着した感がある。特に理型に偏りがちだった研究の成果やその普及も、全校体制の活動の中で文型生徒の入賞や商業科と連携して発表するなど、3 学科を有する本校ならではの特徴をより対外的に出すことができた。また、3 年生の「マルチサイエンスⅡ」も3 年学年団との更なる協力により、円滑な活動を行うことができ、様々なコンテストに出品し、入賞するなど、多くの成果を収めた。また、2 年生の「マルチサイエンスⅠ」においても、西条市をはじめ、多くの諸機関との連携の下で、充実した研究活動が展開されている。今後は活動の中身をより充実させ、成果物の更なる質の向上が求められる。これは1 年生の「有法子」にも同様のことが言え、それらの積み重ねにより課題研究の充実が実現できると考える。また、1 年生の「ベーシックサイエンス」との連携と内容の充実は課題と言える。より組織的、計画的な取組としていきたい。

(2) 研究開発単位 2 「地域及び大学・研究機関との連携による教育プログラム」

西条市とは、1 年生で「有法子」において、「西条市の課題」についての講演をしていただき、2 年生で「マルチサイエンスⅠ」での多くの研究班への協力、3 年生で「市長へのプレゼン」や連携講座と、多岐にわたって連携させていただいている。数多くのプロジェクトを成功させている一方で、多大な負担を掛けているのも事実である。市役所を始め、多くの機関に依存していることは事実であり、より中身の充実と刷新が求められる。継続できるものは継続し、負担が掛かっているものについては大胆な変更が必要と思われる。

(3) 研究開発単位 3 「『質を高める取組』と『地域発着』拠点としての役割の拡大」

国際文理科の研究活動を本校SSHのフラッグシップと位置付ける姿勢を全校体制で行うことができた。1 年生の段階から県外研修を充実させ、研修班のポスター発表を他のクラス発表に重ねるなどの工夫や、2 年生の成果発表でも普通科と会場を一つにすることで、成果の普及と普通科研究班への研究ノウハウの共有を図った。3 年生では理数科生徒を教師役に普通科理型生徒を生徒役にアドバンス科学講座を昨年度に引き続き実施した。今後もより充実した取組を研究していきたい。

地域への普及という点では、地域施設を利用しての成果発表やその後の作品展示など、地道ながら地域に働き掛ける実践を行っている。これ以降も有効な方法を模索していきたい。

2 今後の研究開発の方向性

昨年に引き続き、内容をブラッシュアップして、Ⅱ期3 年目を達成できたと考えている。4 年目は、中間評価を受けての課題に確実に対応していき、本校のSSH事業の更なる発展の可能性を追求していきたい。

1 教育課程表

令和6・7年度入学（国際文理 国際科）愛媛県立西条高等学校（全日制）						
教科	科目	標準 単位数	1年	2年	3年	計
国語	現代の国語	2	2			2
	言語文化	2	3			3
	論理国語	4		2	2	4
	国語総合	4		2	1	3
英語	英文典拠探究	4		2	2	4
	地理探究	2	2			2
	歴史探究	3		3		3
	歴史総合	2	2			2
地理歴史	日本史探究	3				3
	世界史探究	3				3
	地理探究	2				2
	世界史探究	2				2
公民	政治・経済	2		2		2
	政治・経済	2				2
	政治・経済	2				2
	政治・経済	2				2
数学	数学Ⅰ	3	3			3
	数学Ⅱ	4		4		4
	数学Ⅲ	4	2			2
	数学Ⅳ	4		2		2
理科	化学基礎	2	2			2
	生物基礎	2	2			2
	物理基礎	2	2			2
	地学基礎	2	2			2
保健体育	体育	2	2	3	2	7
	体育	2	1			1
	音楽	2				2
	美術	2				2
家庭情報	家庭基礎	2	2			2
	家庭基礎	2	2			2
	情報	2	1			1
	情報	2				2
共通教科・科目計			24	24	23	71
英語	総合英語Ⅰ	2-8	3			3
	総合英語Ⅱ	2-8		4		4
	総合英語Ⅲ	2-8			4	4
	総合英語Ⅳ	2-8				4
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6	2			2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6				2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2-6			2	2
	ディベート・ディスカッションⅣ	2-6		2		2
マサエルチス	ディベート・ディスカッションⅠ	2-6				2
	ディベート・ディスカッションⅡ	2-6		2		2
	ディベート・ディスカッションⅢ	2				

1 理数科と合わせて1学級。*は学校設定科目
2 2・3年の地理歴史の探究科目は、選択している探究科目と同じ科目名を含むものを
3 3年の地理歴史の探究科目は、選択している探究科目と同じ科目名を含むものを
4 スーパーサイエンスハイスクール事業の特別措置により、「保健」「情報1」をそれぞれ1単位減じ、「総合的な探究の時間」を0とする。「保健」「情報1」をそれぞれ1単位減じ、「総合的な探究の時間」を0とする。学校設定科目「マルチサイエンス」で代替する。

備考

令和5・6・7年度入学（普通科）

愛媛県立西条高等学校（全日制）

区分／類型	教科 科目	標準 単位数	文	型	環境	計	3年	2年	1年 (必修)	計	3年	2年	1年 (必修)	計
学	科	目	1年 (必修)	2年	3年	計	3年	2年	1年 (必修)	計	3年	2年	1年 (必修)	計
国語	現代の国語	2	2		2				2				2	2
国語	言語文化	2	3						3				3	3
国語	論理文法	4		2	3	5		2		16		2		16
国語	国語総合	4		2	3	6		2				2		2
英語	英語総合	4		2	2				2				2	2
英語	英語総合	4												
英語	英語総合	4												
英語	英語総合	4												
地理歴史	地理総合	2	2						2				2	2
地理歴史	歴史総合	3		3						12				12
地理歴史	歴史総合	3												
地理歴史	歴史総合	3												
公民	日本史探究	3												
公民	世界史探究	3												
公民	世界史探究	3												
公民	世界史探究	3												
政治経済	政治経済	2		3						3・5		2		2
政治経済	政治経済	2												
政治経済	政治経済	2												
政治経済	政治経済	2												
数学	数学Ⅰ	3	3						3				3	3
数学	数学Ⅱ	4		4				4						4
数学	数学Ⅲ	4												
数学	数学Ⅳ	4												
理科	化学基礎	2	2						2				2	2
理科	生物基礎	2	2							12・14・16				18
理科	物理基礎	2	2											
理科	地学基礎	2	2											
保健体育	保健体育	2	2						2				2	2
保健体育	保健体育	2	2											
保健体育	保健体育	2	2											
保健体育	保健体育	2	2											
芸術	音楽	2	2											
芸術	美術	2	2											
芸術	家庭科	2	2											
芸術	情報	2	2											
外国語	総合英語Ⅰ	2	2											
外国語	総合英語Ⅱ	2	2											
外国語	総合英語Ⅲ	2	2											
外国語	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅲ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅳ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅰ	2	2											
家庭科	総合英語Ⅱ	2	2											

1 理数科と合わせて1学級。*は学校設定科目
2 2・3年の地理歴史の探究科目は、選択している探究科目と同じ科目名を含むものを
3 3年の地理歴史の探究科目は、選択している探究科目と同じ科目名を含むものを
4 スーパーサイエンスハイスクール事業の特別措置により、「保健」「情報1」をそれぞれ1単位減じ、「総合的な探究の時間」を0とする。「保健」「情報1」をそれぞれ1単位減じ、「総合的な探究の時間」を0とする。学校設定科目「マルチサイエンス」で代替する。

備考

令和5・6・7年度入学(国際文理 理数科)					愛媛県立西条高等学校(全日制)				
教科	科目	標準 単位数	1 年	2 年	3 年	計			
国語	現代の国語	2	2			2	13		
	言語文化	2	3			3			
	国語	4		2	2	4			
	古典探究	4			2	4			
	地理総合	2		2		2			
	歴史総合	3			3	5			
	公民総合	2		2		2			
	保健体育	2	2	2	2	2			
	音楽	2				1		8	
	美術	2				0.2			2
家庭・情報・理数	美術	2				0.2	2		
	美術	2				0.2			
	家庭	2	2			2			2
	情報	2				1			1
	理数	2							
	共通教科・科目計	17	11	9	37	37			
	理数	4				5	37		
	数学Ⅰ	8				9			
	数学Ⅱ	2	4	5	2	4			
	物理	3				0.3・8			
英語・総合・その他	英語	3				8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			

令和5・6・7年度入学(商業科)					愛媛県立西条高等学校(全日制)				
教科	科目	標準 単位数	1 年	2 年	3 年	計			
国語	現代の国語	2	2			2	11		
	言語文化	2	2			2			
	国語	4			4	4			
	古典探究	4				3			
	地理総合	2				2			
	歴史総合	2			3	3			5
	公民総合	2		2		2			2
	保健体育	2	2	2	2	2			
	音楽	2				1		8	
	美術	2				0.2			2
家庭・情報・理数	美術	2				0.2	10・15		
	美術	2				0.2			
	家庭	2	2			2			2
	情報	2				1			1
	理数	2							
	共通教科・科目計	19	14	16	18	51・56			
	理数	4				5	34・39		
	数学Ⅰ	8				9			
	数学Ⅱ	2	4	5	2	4			
	物理	3				0.3・8			
英語・総合・その他	英語	3				8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			
	英語	3				0.3・8			

令和5年度入学（国際文理 国際科） 愛媛県立西条高等学校（全日制）

教科	科目	単位数	1 年	2 年	3 年	計
国語	現代の国語	2	2			2
	言語文化	2	3			3
	論理国語	4		2	2	4
	古典探究	4		2	2	4
	*文学探究	3		2	1	3
地理歴史	地理総合	2	2			2
	地理探究	3		3	■3	0・6
	歴史総合	2	2			2
	歴史探究	3		■		0・6
	世界史探究	3		■		0・6
公民	*地理研究	2			■2	0・2
	*日本史研究	2				0・2
	*世界史研究	2				0・2
	公民・経済	2		2		2
	政治・経済	2			3	3
数学	数学Ⅰ	3	3			3
	数学Ⅱ	4		4		4
	数学A	2	2			2
	数学B	2		2		2
	数学C	2			2	2
理科	*数学概論	2			2	2
	化学基礎	2	2			2
	生物基礎	2		2		2
	地学基礎	2		2		2
	*化学探究	2			■2	0・2
保健体育	*地学探究	2				0・2
	体育	7～8	2	3	2	7
	保健	2	1			1
	音楽Ⅰ	2				0・2
	美術Ⅰ	2	2			0・2
芸術	音楽Ⅱ	2				0・2
	美術Ⅱ	2				0・2
	家庭	2	2			2
	情報Ⅰ	2	1			1
	情報Ⅱ	2				2
共通教科・科目計						
英語	総合英語Ⅰ	2～8	24	24	23	71
	総合英語Ⅱ	2～8	3			3
	総合英語Ⅲ	2～8		4		4
	ディベート・ディスカッションⅠ	2～8			4	4
	ディベート・ディスカッションⅡ	2～8	2			2
マサエルエンチス	ディベート・ディスカッションⅢ	2～8			2	2
	エッセイライティングⅠ	2～8		2		2
	エッセイライティングⅡ	2～8			2	2
	*ペーシングサイエンス	2	2			2
	*海洋子	1	1			1
専門教科・科目計	*マルチサイエンスⅠ	2		2		2
	*マルチサイエンスⅡ	1			1	1
	小計		8	8	9	25
	総合的な探究の時間	3～6	32	32	32	96
	ホームルーム活動		1	1	1	3
合計						
総合的な探究の時間			33	33	33	99
ホームルーム活動			1	1	1	3
合計			33	33	33	99

1 選択科目と合わせて1学級。※は学校設定科目
2 2・3年の地理歴史の探究科目は、継続履修。
3 3年の地理歴史の学校設定科目は、選択している探究科目と同じ科目を含むものを履修する。
4 スーパーサイエンスハースクール事業の特例措置により、「保健」「情報Ⅰ」「総合的な探究の時間」を0とする。「保健」「情報Ⅰ」「総合的な探究の時間」は、学校設定科目「マルチサイエンス」で代替する。

2 運営指導委員会会議録

(1) 運営指導委員

羽藤 堅治 氏 (委員長)	愛媛大学大学院農学研究科教授
島瀬 省吾 氏 (副委員長)	愛媛県立松山南高等学校長
山崎 義徳 氏	愛媛大学大学院理工学研究科教授
下村 哲 氏	愛媛大学大学院理工学研究科名誉教授
西條 亮介 氏	松山大学薬学部准教授
鏑本 武久 氏	愛媛大学大学院理工学研究科教授
隅田 学 氏	愛媛大学教育学部教授
井口 梓 氏	愛媛大学社会共創学部准教授
砂田 和之 氏	株式会社サイプレス・スナダヤ会長
渡部 泰成 氏	西条市経営戦略部部長
久松 洋二 氏	愛媛県総合科学博物館学芸課長
濱瀬 明男 氏	愛媛県立宇和島東高等学校長

(2) 第1回運営指導委員会

- ア 日時 令和7年6月13日(金) 14:50~16:30
- イ 場所 愛媛県立西条高等学校 道前会館会議室
- ウ 出席者 運営指導委員8名、愛媛県教育委員会指導主事2名、西条高等学校教員10名
- エ 協議内容

(ア) 「マルチサイエンスⅡ」研究発表会(国際文理科3年生)に関する指導事項

(本校の説明)

- ・昨年度までは「Abstract発表会」であったが、今年度より「Summary発表会」と名称を変えた。例年どおり、オールイングリッシュでの発表と質疑応答を行った。発表要旨集に、英語だけでなく日本語も載せたため、聴衆からの質問が活発になったと感じる。オールイングリッシュでディスカッションすると聞き取ることに注視して、内容が深まらなないと聞いたことがある。何か良い方法があればアドバイスをお願いしたい。

(運営指導委員意見・質問)

- ・昨年度と比べ、発表の仕方、スライドの作り方、質問の仕方について進化が見られた。運営は難しいかもしれないが、発表時間を長くすると内容について議論が深まるのではないかと。
- ・英語での発表と質疑応答で、ハードルが上がっていたが果敢にチャレンジした姿勢は評価できる。プレゼンを誰に聞いてもらいたいかを想定すると、より良くなるのではないかと。英語の質問に対して、発表者が日本語で答える場面があったが、質問されたことに対して自分たちの考えたことをしっかり伝えたという点では、臨機応変な対応で良かったのではないかと。
- ・ターゲットによって研究の方向性が変わってくる。研究の方向性を具体化していくと面白い研究になるのではないかと。英語と日本語の要旨について、微妙な日本語の言い回しもあるので、人文社会系分野では両方を載せることはある。

- ・毎年どのような新しいテーマが出ているのか、統計を取っても面白いのではないかと。本日の発表では、スライドに保れていることと説明が合っていないことがあった。原稿を見直した後、スライドもしっかり見直すことで解決できるので、今一度スライドを見直すことを意識すると良い。

(イ) 令和7年度SSH事業活動状況及び今後の予定

(本校の説明)

- ・今年度も西条市と連携し、講義等をお願いし、SDGsの観点から地域課題についての知見を与えていただいている。課題解決の方法を考えさせ、課題研究の視座を身に付けさせている。また、今年度はハワイのワイパフ高校が10月に本校を訪問し交流する予定である。

(運営指導委員意見・質問)

- ・ワイパフ高校の来校においては、高校生同士で良い化学反応が起こるのではないかと。何をすることが大切だが、楽しい企画だと感じる。ぜひ楽しみながらやってもらいたい。

(本校説明)

- ・国際文理科ならではの取組として、1年生のベーシックサイエンスでは化学の内容をオールイングリッシュで実施した。2年生では、毎週の科学英語の時間に英語で授業を実施する体系的な流れができている。今後は、国際文理科の生徒が講師となって普通科や商業科の生徒に向けた実験講座を体系的に実施していきたい。

(運営指導委員意見・質問)

- ・国際文理科の生徒が講師として、普通科や商業科の生徒に講義するのはアクティブラーニングの一環となっているのだと思う。今後はPBL(Problem Based Learning)型で行うなど、テーマを持って行くとよいのではないかと。

(本校説明)

- ・新入生アンケートについて、中学生一日体験入学を通して、本子の情報を得たという生徒が年々増えている。学校公式Instagramの認知度が着実に上がってきている。西条高校を選んだ理由等は例年と大きな変化はなかった。

(運営指導委員意見・質問)

- ・新入生のアンケートで、西条高校を選んだ理由が「進学や就職に有利だから」に加え、「SSHの指定校だから」とあるが、SSHの活動で現在興味を持っていることという質問では、「進路実現に向けた取組」と答えた割合が低い。SSHの課題解決力が進路実現のベースになっていることが伝わっていないのか。「SSHの指定校だから」という設問に対して何らかの工夫が必要ではないか。

(3) 第2回運営指導委員会

ア 日時 令和7年11月10日(月) 15:00~16:40

イ 場所 愛媛県立西条高等学校 道前会館会議室

ウ 出席者 運営指導委員9名、オブザーバー1名、愛媛県教育委員会指導主事1名、西条高等学校教員8名

エ 協議内容

(ア) 「マルチサイエンスⅠ」中間発表会に関する協議事項
(運営指導委員意見・質問)

- ・全体的にテーマが多様で面白い。課題発見力が身に付いている。生徒が主体的に取り組んでいる様子が分かった。気になった点は、仮説と実験手法にずれが見られることである。後追いでよいので、自分たちがやっている実験は何を目的にしているのかをリンクさせていくとより研究が深化すると思う。調査方法や手法を再検討してみるとよい。
- ・テーマ設定が面白い。研究の深まりは今後に期待している。専門家などの視点から意見をいただくと、より多くの気付きが得られると感じる。
- ・アンケート調査が多いが、アンケートの項目設定については、先行研究も参考にするとよい。
- ・先行研究の調査が甘い。原理との因果関係がはっきり結びついていない研究があった。最初に考えたタイトルのまま研究を続けている班とタイトルを変更している班があったが、研究の進行に伴い、タイトルを適切に変更することも大切である。
- ・目的が大きくなりすぎている研究があったのが気になった。例えば、干潟の研究については、干潟の環境保全までにはなくても、高校生の目線で研究を進めていってもよいのではないかと。研究のプロセスが大事だと感じる。定量的にデータを取ることが難しいものが多いが、データをどのように集めて分析していくのが楽しみである。

(イ) 各事業項目について協議事項

- ・海外の大学・研究機関との連携について

(本校説明)

- ・昨年度はハワイを訪問したが、今年度はハワイ・ワイパフ高校が本校を訪れての交流事業を実施した。今後も実現可能な方法で海外研修を行いたい。

- ・中間評価について

(本校の説明)

- ・今年度9月にSSH中間評価が実施された。その中で、生徒の資質・能力を測る評価方法として、自作のルーブリックとIGS社のAiGROWを併用していることについての質問があった。これら二つを併用していることについて御意見をいただきたい。

(運営指導委員意見・質問)

- ・西条高校のルーブリックはよくできている。AiGROWは、データを丸めてしまうという課題があるため、あまり効果が得られないと感じ、大学では使用をやめた。
- ・西条高校のルーブリックはAiGROWより良い。ルーブリックのみを使用するので十分だと感じる。ただ、生徒にルーブリックの内容について十分に説明して、生徒が理解している必要がある。

(4) 第3回運営指導委員会

ア 日時 令和8年2月10日(火) 15:10~16:40

イ 場所 愛媛県立西条高等学校 道前会館会議室

ウ 出席者 運営指導委員7名、愛媛県教育委員会指導主事1名、西条高等学校教員11名

エ 協議内容

(ア) 令和7年度SSH成果報告会について

(運営指導委員意見・質問)

- ・発表がすばらしかった。テーマ選びについても、友人が困っていることや地域課題を選び取り、どう解決するかを考えて挑戦し、次の課題を見つけるというサイクルができていた。ただ、「結局のところ何が一番伝えたいのか」ということが気になった。知識先行だけでなく、アンケートの結果などから、自分たちが考えたことを主張してもよいのではないかと。価値からアプローチすると感動になる。今後に期待できる内容であった。
- ・すばらしい発表が数多く見られた。生徒たちが教室を飛び出し、地域の方に直接聞きに行くなどして意見をもらっている。中間発表のときに質問が消極的な様子が見られたが、本日は質問が途切れなかった。あとは、「地域の活性化」などの用語の定義をしっかりと押さえて研究を進めることが更なる成長につながる。
- ・テーマが多岐にわたり、研究の出発点が生徒の純粋な疑問や課題解決への気持ちであった。全校体制で取り組み、つながりがある。例えば、お堀をテーマに生物と地学の研究班が融合するなど、良い化学反応が起きていると感じた。生徒が純粋に考えた疑問点を大切に、最終的に生徒が科学的なものの見方を身に付けられるよう、指導者が導くことが肝要である。他県や他のSSH指定校と比べるとテーマを生徒に任せすぎていると言われるかもしれないが、私はそこが大切だと思う。

- ・各分野でレベルアップしている。仮説の立て方、結果を論じる寸前までは良い形で進んでいる。ただ、自分が何を言いたいかははっきりしていないため、結果の見せ方には課題が残る。大学生でも難しいところであるが、図の作り方で伝えたいことが変わるので、最後の自己主張をどうやって図表に持ってくるかを再考してほしい。

(イ) 令和7年度SSH事業の反省について

- ・「有法子」について

(本校説明)

- ・1月にクラス発表会、2月に学年発表会を実施した。クラス発表会では2年生にメンターとして入ってもらい、アドバイスをもらった。国際文理科ではALTの協力のもとオールイングリッシュによる発表を行った。

(運営指導委員意見・質問)

- ・そもそもプレ課題研究とはどういったことをしているのか。(本校説明)
- ・1・2学期に市役所等から講師を招き、地域課題について御講演いただいている。西条市の商店街の活性化や医療などの研究テーマが多い。RESASなども使用し、客観的なデータに基づき課題を掘り下げている。

(ウ) II期4年目へ向けて

- ・中間評価を受けて

(本校説明)

- ・中間評価の結果がまだ発表されていないため、中間評価ヒアリングの質問内容から、いくつか今後の課題を述べたい。ベーシックサイエンスについては、理科と情報を合わせており科目としての可能性が感じられる。今後も内容をブラッシュアップしていく。学校公式ホームページと本校SSHに関するホームページの統一については、サーバーの容量の問題を解決して統一を目指している。4年目に向けて、特に課題となるのは評価だと感じている。AiGROWを継続せずに学校独自ループブックをより洗練させる工夫をしていきたい。ループブックAは相互評価シートであり、生徒自身がお互いコメントをする。相対的に理解するため使用している。Cが活動全般ループブック、普段の活動に対し、コンピテンシーベースの表現である。D～Fは教員用。特徴としては3観点と合致させ、現在の評価に準じて作成している。発表の得点のつけ方が資質能力の数字になっていないことが課題。自己評価や振り返りに使っている状態。本来は8つの資質能力で評価すべきであるが、実際の発表ではこのあたりが難しい。御助言いただきたい。

(運営指導委員意見・質問)

- ・グループで研究活動を行っている場合、自分の目標部分の達成率、役割貢献度などを項目に入れてもいいのではないかな。
- ・最後の考察にも生きてくるので、先行研究との比較につい

ての項目は必要である。また、研究に対して意見を述べることができるか、貢献度とは違ってアイデア出しができたかどうかの項目を入れてはどうか。新しい発想をどれぐらい入れるかが大切である。

- ・生徒資料Bの項目において、発表態度が良いことがなぜ望まれているのかを生徒がそもそも理解できているのか。資料の中に8つの観点に当てはまるものを入れてもよいのではないかな。

3 課題研究テーマ一覧

(1) 「プレ課題研究」(1年生)

教科	テーマ
環境	西条市における農業後継者不足の原因と対策
環境	西条市の水が危なくて 減!
環境	ごみの量を減らしてリサイクル率を増やすには?
環境	フリーマーケットでつくるエコ西条
経済	減らそう空き家!使おう中古住宅!!
経済	Let's save the dying primary industries
経済	外国人向けの西条市滞在プランを計画してみよう!
社会	西条市における高齢者の交通と社会のデジタル化
社会	西条市のごみ問題と私たちができること
社会	ゴミ箱の中に11億円
社会	正解のない毎日を今日も育てている。
社会	子育て世代が住みやすい街づくり
社会	日本語がわからない在住外国人のためにできること
社会	西条の医療と福祉の向上
社会	こころの病気を持つ方やその家族が地域で生活していくためにどのようなことが必要か?
社会	すべての人に健康と福祉を
社会	ジェンダーギャップ指数から考える日本の社会問題
社会	小学生以下の外遊離れについて
社会	無責任に失われている犬猫を守るために
社会	こども食堂の活性化について
社会	愛媛県における医療現場での災害時の取組
社会	西条市の地震災害時の医療体制について
社会	西条市の夜間・休日の救急医療体制の現状と課題
社会	観光と防災を組み合わせた多言語マップ作り
社会	日本のマナー解説動画作ってみた
社会	子どもの外遊び減少について
社会	日常生活のごみをなくそう
地域	西条市の空き家の現状と活用
地域	商店街の現状と活性化について
地域	西条市を活性化させよう!!
地域	みんなで創る西条の誇り～西条まつり～
地域	西条祭りによる影響
地域	住み慣れた地域で生きるために～介護の現状と今後の課題～
地域	私たちしか知らない、西条市～Must-See Spots in Saijo City for International Visitors～
地域	地域で安心して子育てするには
地域	紺屋町商店街と大街道の比較
地域	紺屋町商店街の活性化のために～全国の商店街との比較を通して～
地域	子どもが楽しめる場所と少子化の関係～西条市を中心に他市と比較して～
地域	西条市の隠れスポットを発見して地域の活性化を図ろう!!
地域	西条市の名水うちめきを広めよう～奥大山の水との比較を通して～
地域	西条市の人口減少を止めるには
地域	西条に戻ってくる人を増やそう!
地域	全員が気持ちのよく利用できる駅にしよう!!
地域	特産品の販路拡大と認知度の向上
地域	西条市の少子化に向き合う
地域	西条市における犬猫の殺処分について
地域	若者を町に呼び起こそう!!!
地域	西条市の観光客を増やすためには
防災	Disaster Prevention in Saijo
防災	南海トラフの被害と生き残るための準備物
防災	災害への対策と災害時の適切な行動
防災	江戸時代の防災知識×現代の防災知識を活かした新知識!?
防災	地震からあなたの命守ったる!～南海トラフ巨大地震 食の防災～
防災	南海トラフに備えよう
防災	南海トラフ巨大地震に向けて

(2) 「マルチサイエンスⅠ」(2年生)

教科	テーマ
国語	近代文学の魅力について知ってもらおう!～関心喚起から行動促進までのプロセス～
国語	擬音語の効果による読書離れの課題解決
国語	言語学の視点から考えるより良い授業実践
国語	漢文教育は必要だ!～高校生の「不要論」への挑戦～
国語	教科書から考えるジェンダー平等
国語	SNSにある言葉の力
国語	舌切り雀の新解釈
地歴・公民	名水のまちを、いちばん好きな場所に～高校生とつくる共創プロジェクト～
地歴・公民	LOVEゆべし～西条の老舗をもりあげよう～
地歴・公民	自転車マナーの実態から考える交通環境改革
地歴・公民	知られざる西条市の魅力
地歴・公民	地震発生後72時間を生き抜く防災バッグ～自分とこの街に合った防災バッグを作ろう～
地歴・公民	蔵はち×SDG sで地域活性化に貢献しよう
地歴・公民	イベント開催による紺屋町商店街の活性化
保健体育	西条キッズスマイル大作戦ー子どもたちの支援を考える
保健体育	打球速度向上のための効果的なトレーニング法
保健体育	スポーツ障害とバラスポーツを通して共生社会について考える
芸術(音楽)	音楽における医療的効果～MITを活用して～
芸術(美術)	水の都の灯籠祭ーうちめき水の魅力をPR!ー
英語	3LBS ～Let's Break Language Barrier into Language Bridge～
英語	Enhancing Children's Interest in Other Cultures through Activities
英語	Developing "Smart English"
英語	The World of Words Expanding from the Screen～A new approach to learning English through music～
英語	Pronunciation and Communication ～Rethinking Japanglish～
英語	Fostering International Awareness Via Events
家庭	ワンちゃん食品ロス減らせるんじゃない?～捨てちゃう部分の可能性～
数学・情報	シティロゲイニングにおける採点システム開発～画像認識を用いて～
数学・情報	光の反射の法則～図形における光の進み方の規則性～
数学・情報	グラフ上のNimゲームにおける必勝法
数学・情報	若者の筋力向上
数学・情報	ノーコードツールを活用した日常生活課題解決型アプリ開発
数学・情報	AI×Scratchで変わる勉強のカタチ
数学・情報	地域医療の発展
理科(物理)	交流磁場中で自己発熱する磁性ナノ粒子の開発
理科(物理)	ダ・ヴィンチの橋にかかる重さに対する強さと木材の種類・形、組み方の関係
理科(物理)	模擬人工衛星による温度データ解析
理科(物理)	風力発電機のブレードの形状と数が発電効率に及ぼす影響について
理科(化学)	ポリエチレンテレフタレートPETの分解実験
理科(化学)	墨汁の可能性を探る～電子レンジのマイクロ波を活用して～
理科(化学)	副生塩からの塩化ナトリウムろ過
理科(化学)	茶殻によるアンモニア吸着測定の実験
理科(化学)	自然素材を用いた日焼け止めの研究
理科(化学)	柑橘類に含まれるリモネンの抽出の効率化
理科(生物)	西条市千町地区における訪花性カミキリムシの生態調査
理科(生物)	生物から知るお堀の水
理科(生物)	愛媛県西条市の中山川と加茂川の干潟に生息する生物の比較
理科(生物)	プロバイオティクスとユーグレナを用いた発酵飼料の開発～抗生物質に頼らない健康な畜産を目指して～
理科(生物)	敏感肌でも使える消毒液の作成
理科(地学)	液状化現象の対策
理科(地学)	消波ブロックによる津波の緩和について
理科(地学)	学校の水堀の水質悪化要因の解明～バックテストと溶存酸素計を用いて探る～
理科(地学)	気象要素が体調へ及ぼす影響
商業	輝安 K O U 房 活 動 中 !! ～市之川鉱山の日～
商業	救おう! みんなの命 防西 s ～地域の防災リーダーになるためには～
商業	双方向コミュニケーションツールの探究～for every child 誰一人置き去りにしないために～
商業	輝安鉱スイーツ完成に向けて～地域企業とコラボ商品を作ろう～

4 開発教材

(1) 独自に開発した教材・成果物等の一覧

教材等名	学校公式ホームページへの掲載状況		説明
学校設定科目「ベーシックサイエンス」教材（物理分野ワークシート）	○	https://saijo-h.esnet.ed.jp/file/16921	探究実験「衝突する鉄球の不思議」に関する授業（5回分）のワークシートである。
学校設定科目「ベーシックサイエンス」教材（化学分野ワークシート）	○	https://saijo-h.esnet.ed.jp/file/16923	探究実験「とける氷の不思議」に関する授業（5回分）のワークシートである。
学校設定科目「ベーシックサイエンス」教材（生物分野ワークシート）	○	https://saijo-h.esnet.ed.jp/file/16925	探究実験「細胞における水の移動」に関する授業（5～6回分）のワークシートである。
学校設定科目「ベーシックサイエンス」教材（地学分野ワークシート）	○	https://saijo-h.esnet.ed.jp/file/16927	探究実験「沈む粒子の不思議」に関する授業（4回分）のワークシートである。
学校設定科目「マルチサイエンスⅠ」教材（課題設定ワークシート）	○	https://saijo-h.esnet.ed.jp/file/16929	課題研究のテーマとリサーチクエスチョンを決めるためのワークシートである。
学校設定科目 活動全般ルーブリック	○	https://saijo-h.esnet.ed.jp/file/16931	探究活動におけるルーブリックである。
学校設定科目「マルチサイエンス」発表評価ルーブリック	○	https://saijo-h.esnet.ed.jp/file/16932	課題研究の発表会用のルーブリックである。
学校設定科目「有法子」「マルチサイエンスⅠ」相互評価シート	○	https://saijo-h.esnet.ed.jp/file/16937	探究活動における生徒同士の評価に用いるワークシートである。
発表評価シート（生徒記入用）	○	https://saijo-h.esnet.ed.jp/file/16938	参観者が発表者に渡すため評価票である。
学校設定科目「マルチサイエンスⅠ」活動状況評価シート	○	https://saijo-h.esnet.ed.jp/file/16939	2年生の課題研究における、活動状況の評価票である。
学校設定科目「マルチサイエンスⅠ」動画発表評価シート	○	https://saijo-h.esnet.ed.jp/file/16940	2年生の課題研究における、動画発表の評価票である。

(2) ベーシックサイエンスのワークシート

ベーシックサイエンス (科学英語・生物)

Under what conditions does plasmolysis occur?

Lesson goals	Plant cells are immersed in solutions of various concentrations to examine the relationship between the concentration of the external solution and osmosis.
Preparation	Saxifrage、Sucrose aqueous solution (5%、10%、20%)、Distilled water、Tube bottle、Microscope

【Consider the concentration of solutions A to D!】

- Method
1. Peel off the underside of the saxifrage leaves with tweezers and immerse them in one of the tubes A to D for about 5 minutes.
 2. After 5 minutes of soaking, each sample is examined under a microscope.
(When preparing the glass slide, care is taken to prevent the leaves from wrinkling, and the solution in which the leaves were immersed is dropped onto the glass slide for observation.)
 3. The concentrations of A to D are determined based on the state of the cells.

【At what concentration does plasmolysis begin to occur??】

- Method
1. Count all the red-pigmented cells visible in the microscope field. ...①
 2. Next, the number of cells that have red pigment and are undergoing plasmolysis are counted. ...②
 3. The rate of plasmolysis is calculated from the results of methods 1 and 2.

$$\text{②} / \text{①} \times 100 (\%)$$

◎The definition of an aqueous solution in which plasmolysis begins to occur is "half of the observable cells are undergoing plasmolysis." (For example, if 20 cells can be observed, 10 will have undergone plasmolysis.)

Experimental results

Types of aqueous solutions	Distilled water ()	5 % ()	10% ()	20% ()
Number of cells with red pigment...①				
Number of cells undergoing plasmolysis among ① ...②				
Percent plasmolysis $\text{②} / \text{①} \times 100 (\%)$				
(Class average)				

Consideration

Did the results of the experiment show that all cells underwent plasmolysis simultaneously?
Think about what you can infer from this.

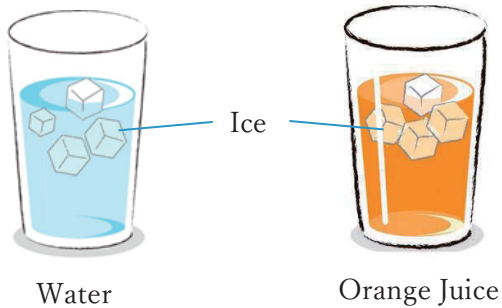
*Write down any observations or questions you have through this experiment.

Name ()	weather () temperature () °C
----------	--------------------------------

ベーシックサイエンス（科学英語・化学）

No. 2-1 The Mystery Of Melting Ice	Name:	Date:
---	--------------	--------------

① Which ice melts faster?



Prediction

I think . . .

What is your **hypothesis**? Please discuss in groups.

If we . . .

then . . .

This is because . . .

Experiment 1: Pour 100mL of “water” and ‘orange-like juice’ into two cups. Add ice and **observe**.

Preparations	
---------------------	--

② **Results** of the Experiment

--

③ Think & discuss in groups about the reason (hypothesis) for the speed.

--

④ How can we **prove** our hypothesis?

--

5 ルーブリック

資料A 生徒用 発表相互評価シート

() 組 () 番 氏名 ()

1. 発表相互評価 (資料B を参照して得点を記入すること)

評価票		発表 * 各項目10点、合計60点満点で評価							コメント
教科	班	①	②	③	④	⑤	⑥	合計	
		/10	/10	/10	/10	/10	/10	/60	
		/10	/10	/10	/10	/10	/10	/60	
		/10	/10	/10	/10	/10	/10	/60	
		/10	/10	/10	/10	/10	/10	/60	
		/10	/10	/10	/10	/10	/10	/60	
		/10	/10	/10	/10	/10	/10	/60	
		/10	/10	/10	/10	/10	/10	/60	
		/10	/10	/10	/10	/10	/10	/60	

2. 発表を終えての感想

資料B 生徒用 発表評価ルーブリック (自己評価) () 組 () 番 名前 ()

項目	評価基準					各項目 10点満点
	10点	8点	6点	4点	2点	
① 提示資料	文字やグラフの大きさ・配色・配置等が適切で、極めて見やすい。	文字やグラフの大きさ・配色・配置等が適切である。	文字やグラフの大きさ・配色・配置等がおおむね適切である。	文字やグラフの大きさ・配色・配置等がやや不適切である。	文字やグラフの大きさ・配色・配置等が不適切で見にくい。	
② 時間	規定時間±15秒である。	規定時間±30秒である。	規定時間±1分以内である。	規定時間±1分30秒以内である。	規定時間±1分31秒以上である。	
③ 発表態度	声が大きく適切な速度で、原稿に頼らず堂々と発表している。	一部原稿を参照する場面も見られるが、聴衆の反応を確認しながら聞き取りやすい発表をしている。	半分程度は原稿を見ており、声の大きさや話す速度はおおむね適切である。	ほとんどの場面で原稿やスライドを読み上げており、声の大きさや速度も不適切なところがある。	終始原稿やスライドを読み上げており、発表も聞きづらく、自信や意欲が感じられない。	
④ 質疑応答	全ての質問に的確に答えており、説明も専門的・論理的である。	質問への応答がおおむね的確であり、内容も専門的・論理的である。	質問に答えているが情報が不足しており、想定外の内容には答えに窮することがある。	質問に答えようとはしているが、情報が著しく不足しており、的確に答えられていない。	何も答えられない。 「今後の課題とします。」	
⑤ SDGs	SDGsの観点から課題を積極的に解決しようとしている。	10には満たないがSDGsの観点から課題を解決しようとしている。	SDGsの観点から課題を解決しようとしているが、不十分な面がある。	SDGsの観点から課題を解決する姿勢が見られない。	SDGsの観点が入っていない。	
⑥ 研究の充実	目的や仮説に基づいて具体的な計画を立てており、検証方法や実験などに創意工夫が見られる。データの分析も適切で論理的に考察している。	10には満たないが目的や仮説に基づいて研究計画を立てており、検証方法や実験を工夫している。結果に基づいた考察もできている。	目的や仮説は述べられているが、設定理由や検証の意義をより明確にする必要がある。結果に基づいた考察もおおむねできている。	目的や仮説が述べられているが、設定した理由や検証の意義が不明瞭である。結果に基づいた考察もあまりできていない。	目的や仮説が述べられておらず、研究目的も不適切である。考察も主観にすぎない。	
コメント						
・このルーブリックをもとにTeamsに得点を入力し、コメントを具体的に記入してください。						
・このシートは、マルチ担当の先生に提出後、返却されたら、ファイルに綴じてください。						

資料C 生徒用 活動全般評価ルーブリック（自己評価）（ ）組（ ）番 名前（ ）					
3つの資質・能力 （上位観点）	8つの資質・能力 （下位観点）	求めているレベルを超えて達成している	求めているレベルをおおむね達成している	求めているレベルを達成するには大きな課題がある	各項目
		5点	4点・3点	2点	5点満点
研究に向かう ベシクマインド	サイエンス リテラシー	実験や調査が適切な方法で実施されており、結果を基に客観的な考察ができています。	実験や調査がおおむね適切な方法で実施されているが、考察に一部主観的なものが含まれる。	実験や調査が適切な方法で実施されず、考察の多くが主観的である。	
	グローカル マインド	研究テーマと地域の課題との関係性をSDGsの視点から理解し、その解決に向けて継続的に取り組んでいる。	研究テーマと地域の課題との関係性をSDGsの視点からおおむね理解できており、その解決に向けて取り組もうとしている。	研究テーマと地域の課題との関係性をSDGsの視点からの理解に乏しく、その解決に向けての取組も積極的でない。	
	イノベーション マインド	多方面からアイデアが提案され、それらが研究内容に反映されている。	アイデアを出そうとする姿勢があり、それらをもとに研究を推進しようとしている。	アイデアを出すことに積極的でなく、研究を推進するまでには至っていない。	
科学的に探究する力	課題発見力	研究に必要な情報や先行研究に関する情報を積極的に集め、具体的な課題や研究目的が設定できている。	研究に必要な情報や先行研究に関する情報をある程度集め、それらを基に課題や研究目的がおおむね設定できている。	研究に必要な情報や先行研究に関する情報を十分に集められず、課題の発見や研究目的の設定が具体的ではない。	
	研究構想力	実験や調査方法などの研究計画が適切に立てられ、研究目的が十分に達成されている。	実験や調査方法などの研究計画がおおむね適切に立てられており、研究目的の達成につなげようとしている。	実験や調査方法などの研究計画が十分でなく、研究目的の達成につなげることが困難である。	
	研究実践力	新しい知見が得られるなど、研究成果が十分に生み出され、粘り強く課題研究に取り組んでいる。	新しい知見が得られるなど、研究成果を生み出すまでには至っていないが、粘り強く課題研究に取り組んでいる。	新しい知見が得られるなど、研究成果を生み出すまでには至っておらず、課題研究への取組も積極的ではない。	
他者と協働する力	チームワーク力	研究の方向性を班内で常に共有し、役割分担を適切に行って活動している。	研究の方向性を班内でおおむね共有した上で役割分担を行い、活動に取り組もうとしている。	研究の方向性を班内で共有できておらず、班内の連携が十分でない。	
	コミュニケーション力	相手に伝わりやすい表現を心掛けて研究発表に取り組み、質問に対して適切な応答ができています。	手元に用意した原稿に頼らず自分の言葉で発表し、質問に対してもおおむね適切な応答ができています。	手元に用意した原稿に頼って発表し、質問に対しても適切な応答には至っていない。	
コメント					
・このルーブリックをもとにTeamsに得点を入力し、コメントを具体的に記入してください。 ・このシートは、マルチ担当の先生に提出後、返却されたら、ファイルに綴じてください。					

資料D		教員用		発表評価ルーブリック		発表評価票は 資料E		にご記入ください。	
項目	観点	評 価 基 準 各 5 点							
		5点	4点	3点	2点	1点			
①	提示資料	知 技	文字やグラフの大きさ・配色・配置等が適切で、極めて見やすい。	文字やグラフの大きさ・配色・配置等が適切である。	文字やグラフの大きさ・配色・配置等がおおむね適切である。	文字やグラフの大きさ・配色・配置等がやや不適切である。	文字やグラフの大きさ・配色・配置等が不適切で見にくい。		
②	発表態度	原稿	主体的	原稿に頼らず自分の言葉で発表している。	一部原稿を参照する場面も見られるが、自分の言葉で発表している。	半分程度は原稿を見ながら発表している。	ほとんどの場面で原稿やスライドに書かれてあることを読み上げている。	終始原稿やスライドに書かれていることを読み上げている。	
③		声量	知 技	声が大きく、話す速度が適切で極めて聞き取りやすい。	5に満たないが、声の大きさや話す速度が適切で聞き取りやすい。	声の大きさや話す速度がおおむね適切である。	声の大きさや話す速度が一部不適切なところがある。	声の大きさや話す速度が不適切で聞き取りづらい。	
④		表現力	主体的	聴衆の反応を確認しながら発表し、自信にあふれた魅力ある発表をしている。	聴衆の反応を確認しながら発表している。	聴衆の反応を時折確認しながら発表している。	聴衆の反応をほとんど確認せずに発表している。	聴衆を見ずに発表し、自信や意欲が感じられない。	
⑤		時間	知 技	規定時間±15秒である。	規定時間±30秒である。	規定時間±1分である。	規定時間±1分30秒である。	規定時間±1分31秒以上である。	
⑥	内容	レベル	思 判 表	レベルが高い。 （高校での学習を超えた内容）	レベルがやや高い。 （現学年の学習を超えた内容）	レベルが標準的である。 （現学年の学習程度の内容）	レベルがやや低い。 （高校生未満の学習内容）	レベルが低い。 （中学生未満の学習内容）	
⑦	質疑応答	積極性	主体的	全ての質問に的確に答えている。	全ての質問におおむね的確に答えている。	質問に答えているが、想定外の内容には答えに窮することがある。	質問に答えようとしているが、的確に答えられていない。	何も答えられない。 「今後の課題とします。」	
⑧		内容	思 判 表	専門的・論理的な説明を行っている。	おおむね専門的・論理的な説明を行っている。	一部の情報が不足している。	情報が著しく不足している。	何も答えられない。 「今後の課題とします。」	
⑨		SDGs	知 技	SDGsの観点から課題を積極的に解決しようとしている。	5には満たないがSDGsの観点から課題を解決しようとしている。	SDGsの観点から課題を解決しようとしているが、不十分な面がある。	SDGsの観点から課題を解決する姿勢が見られない。	SDGsの観点が入っていない。	
⑩	研究の充実	計画性	思 判 表	目的や仮説に基づき具体的な研究計画が立てられている。	5には満たないが目的や仮説に基づき研究計画が立てられている。	目的や仮説は述べられているが、設定理由や検証の意義をより明確にする必要がある。	目的や仮説が述べられているが、設定した理由や検証の意義が不明瞭である。	目的や仮説が述べられておらず、研究目的も不適切である。	
⑪		方法	思 判 表	研究目的を達成するために、検証方法や実験などに創意工夫を凝らしている。	5には満たないが、検証方法や実験などを工夫している。	おおむね目的に沿った検証方法や実験が考えられている。	目的達成のための方法が十分考えられていない。	研究方法が述べられていない。	
⑫	考察	思 判 表	豊富なデータを分析し、適切に図表を用いて論理的な考察ができています。	5には満たないが、データ分析が適切で、結果に基づいた考察ができています。	データ分析がほぼ適切であり、結果に基づいた考察がおおむねできています。	データに不適切な部分があり、結果に基づいた考察があまりできていない。	データに不適切な部分が多く、結果を並べて主観的に考察しているだけである。		

資料 E

教員用

発表評価票

ループリックは

資料 D

をご参照ください

教科	班	観点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	観点合計	総合計
		知技													/20	/60
		思判表													/25	
		主体的													/15	
		知技													/20	/60
		思判表													/25	
		主体的													/15	
		知技													/20	/60
		思判表													/25	
		主体的													/15	
		知技													/20	/60
		思判表													/25	
		主体的													/15	
		知技													/20	/60
		思判表													/25	
		主体的													/15	
		知技													/20	/60
		思判表													/25	
		主体的													/15	
		知技													/20	/60
		思判表													/25	
		主体的													/15	

資料 F

教員用

活動全般評価ループリック

3つの資質・能力 (上位観点)	8つの資質・能力 (下位観点)	求めているレベルを超えて達成している	求めているレベルをおおむね達成している	求めているレベルを達成するには大きな課題がある
		5点	4点・3点	2点
研究に向かう ベースックマインド	サイエンス リテラシー	実験や調査が適切な方法で実施されており、結果を基に客観的な考察ができています。	実験や調査がおおむね適切な方法で実施されているが、考察に一部主観的なものが含まれる。	実験や調査が適切な方法で実施されず、考察の多くが主観的である。
	グローバル マインド	研究テーマと地域の課題との関係性をSDGsの視点から理解し、その解決に向けて継続的に取り組んでいる。	研究テーマと地域の課題との関係性をSDGsの視点からおおむね理解できており、その解決に向けて取り組もうとしている。	研究テーマと地域の課題との関係性をSDGsの視点からの理解に乏しく、その解決に向けての取組も積極的でない。
	イノベーション マインド	多方面からアイデアが提案され、それらが研究内容に反映されている。	アイデアを出そうとする姿勢があり、それらをもとに研究を推進しようとしている。	アイデアを出すことに積極的でなく、研究を推進するまでには至っていない。
科学的に探究する力	課題発見力	研究に必要な情報や先行研究に関する情報を積極的に集め、具体的な課題や研究目的が設定できている。	研究に必要な情報や先行研究に関する情報をある程度集め、それらを基に課題や研究目的がおおむね設定できている。	研究に必要な情報や先行研究に関する情報を十分に集められず、課題の発見や研究目的の設定が具体的ではない。
	研究構想力	実験や調査方法などの研究計画が適切に立てられ、研究目的が十分に達成されている。	実験や調査方法などの研究計画がおおむね適切に立てられており、研究目的の達成につなげようとしている。	実験や調査方法などの研究計画が十分でなく、研究目的の達成につなげることが困難である。
	研究実践力	新しい知見が得られるなど、研究成果が十分に生み出され、粘り強く課題研究に取り組んでいる。	新しい知見が得られるなど、研究成果を生み出すまでには至っていないが、粘り強く課題研究に取り組んでいる。	新しい知見が得られるなど、研究成果を生み出すまでには至っておらず、課題研究への取組も積極的ではない。
他者と協働する力	チームワーク力	研究の方向性を班内で常に共有し、役割分担を適切に行って活動している。	研究の方向性を班内でおおむね共有した上で役割分担を行い、活動に取り組もうとしている。	研究の方向性を班内で共有できておらず、班内の連携が十分でない。
	コミュニケーション力	相手に伝わりやすい表現を心掛けて発表に取り組み、質問に対して適切な応答ができています。	手元に用意した原稿に頼らず自分の言葉で発表し、質問に対してもおおむね適切な応答ができています。	手元に用意した原稿に頼って発表し、質問に対しても適切な応答には至っていない。

6 アンケート結果

(1) 生徒アンケート

ア 「AiGROW」 結果

		課題 設定	解決 意向	論理的 思考	疑う力	創造性	個人的 実行力	ヴィ ジョン	自己 効力	興味	耐性	決断力	表現力	共感・ 傾聴力	柔軟性	影響力 の行使	地球 市民
1年生	普通科	0.66	0.66	0.66	0.67	0.66	0.67	0.65	0.67	0.65	0.67	0.66	0.65	0.64	0.64	0.64	0.61
	国際文理科	0.71	0.71	0.70	0.70	0.68	0.70	0.69	0.68	0.68	0.68	0.70	0.67	0.67	0.66	0.59	0.63
	全体	0.66	0.66	0.66	0.67	0.66	0.66	0.65	0.66	0.65	0.67	0.66	0.64	0.64	0.64	0.58	0.62

		課題 設定	解決 意向	論理的 思考	疑う力	創造性	個人的 実行力	ヴィ ジョン	自己 効力	興味	耐性	決断力	表現力	共感・ 傾聴力	柔軟性	影響力 の行使	地球 市民
2年生	普通科	0.66	0.67	0.65	0.66	0.66	0.64	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	0.64	0.62
	国際文理科	0.67	0.67	0.65	0.68	0.68	0.65	0.65	0.66	0.65	0.67	0.65	0.64	0.65	0.64	0.64	0.64
	全体	0.66	0.67	0.65	0.66	0.67	0.64	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	0.64	0.65	0.65	0.64	0.62

		課題 設定	解決 意向	論理的 思考	疑う力	創造性	個人的 実行力	ヴィ ジョン	自己 効力	興味	耐性	決断力	表現力	共感・ 傾聴力	柔軟性	影響力 の行使	地球 市民
3年生	普通科	0.65	0.66	0.64	0.66	0.66	0.61	0.65	0.64	0.64	0.65	0.64	0.62	0.64	0.63	0.62	0.61
	国際文理科	0.69	0.69	0.67	0.69	0.68	0.66	0.68	0.67	0.67	0.67	0.67	0.65	0.66	0.66	0.62	0.64
	全体	0.66	0.68	0.65	0.67	0.67	0.63	0.66	0.65	0.65	0.66	0.65	0.64	0.65	0.65	0.63	0.62

イ SSHの取組に関する生徒意識調査（2月実施、4段階評価）

設問番号	設 問	1 年 生		2 年 生	
		R6	R7	R6	R7
1	未知の事柄に対する興味（好奇心）が増した。	3.4	3.4	3.4	3.4
2	研究テーマに関する専門分野（または教科の理論や原理、技術）に対する興味が増した。	3.3	3.4	3.5	3.4
3	実験（または実習、文献調査）に対する興味が増した。	3.4	3.3	3.4	3.4
4	観測や観察（またはフィールドワーク、インタビュー）に対する興味が増した。	3.3	3.3	3.3	3.4
5	学んだことを応用することに対する興味が増した。	3.3	3.3	3.5	3.5
6	真実を探って明らかにしたい気持ち（探究心）が高まった。	3.4	3.4	3.4	3.4
7	自分から取り組む姿勢（自主性、やる気、挑戦心）が身に付いた。	3.4	3.4	3.5	3.5
8	周囲と協力して取り組む姿勢（協調性、リーダーシップ）が身に付いた。	3.3	3.3	3.5	3.5
9	粘り強く取り組む姿勢が身に付いた。	3.3	3.4	3.5	3.5
10	独自のものを創り出そうとする姿勢が身に付いた。	3.2	3.2	3.4	3.4
11	計画性がついた。	3.1	3.2	3.2	3.2
12	発見する力（問題発見力、気付く力）が身に付いた。	3.2	3.4	3.4	3.4
13	情報を収集し、分析する力が身に付いた。	3.4	3.5	3.4	3.5
14	問題を解決する力が身に付いた。	3.3	3.3	3.4	3.5
15	考える力（洞察力、発想力、論理力）が身に付いた。	3.3	3.4	3.4	3.4
16	コミュニケーション力が身に付いた。	3.3	3.4	3.4	3.4
17	まとめる力が身に付いた。	3.2	3.2	3.4	3.4
18	成果を発表し伝える（レポート作成、プレゼンテーション）力が身に付いた。	3.4	3.4	3.5	3.5
19	国際性（国際感覚、異文化理解）が身に付いた。	3.0	3.0	2.9	3.0
20	教科の学力が身に付いた（学習意欲が高まった）。	3.1	3.1	3.2	3.2
21	課題研究は進路選択の参考になる。	3.3	3.3	3.3	3.4
22	課題研究に積極的に取り組んでいる。	3.4	3.4	3.6	3.6
23	課題研究は有意義な学習である。	3.4	3.4	3.5	3.6
24	課題研究は面白い。	3.3	3.4	3.5	3.5
25	自分の課題研究への取組に満足している。	3.1	3.2	3.4	3.4
26	課題研究は教科の学習や学校生活にとって負担が大きい。	2.9	2.9	2.9	2.9
27	課題研究に取り組む授業時間が少ない。	3.0	3.0	3.0	3.0
28	今後、大学等で研究（実験、情報収集等を含む）に取り組みたい。	3.0	3.0	3.2	3.2
29	地域課題の解決へ向けて研究に取り組みたい。	3.1	3.2	3.2	3.2
30	自分で研究課題を設定する力が身に付いた。	3.1	3.1	3.2	3.2
31	文理融合の複数の分野にまたがる課題に気付いた。	3.0	3.0	3.0	3.0

(2) 教職員アンケート（４段階評価）

（２月実施、４段階評価）

項目番号	項 目	R4	R5	R6	R7
1	本校の教育活動全般にとって有意義である。	3.4	3.6	3.7	3.6
2	本校の魅力向上につながっている。	3.5	3.7	3.8	3.7
3	本校の理数教育の充実につながっている。	3.4	3.6	3.6	3.6
4	学校全体の探究する力が向上する。	3.2	3.4	3.6	3.5
5	学校全体の取組になっている。	3.5	3.7	3.5	3.6
6	教員の負担になっている。	3.6	3.4	3.5	3.4
7	地域理解を深め地域課題解決への意欲を持つ生徒の育成につながっている。	3.2	3.5	3.5	3.4
8	幅広い視野で問題解決に取り組む生徒の育成につながっている。	3.1	3.4	3.5	3.4
9	生徒の科学的素養の醸成につながる。	3.2	3.3	3.5	3.5
10	生徒の国際人としてのコミュニケーションスキルの養成につながる。	2.9	3.1	3.2	3.2
11	生徒の進路意識を高めている。	3.1	3.2	3.3	3.4
12	生徒の進路実現に役立つ。	3.5	3.7	3.6	3.7
13	生徒の教科学習や学校生活にとって負担になっている。	3.0	2.9	3.0	3.2

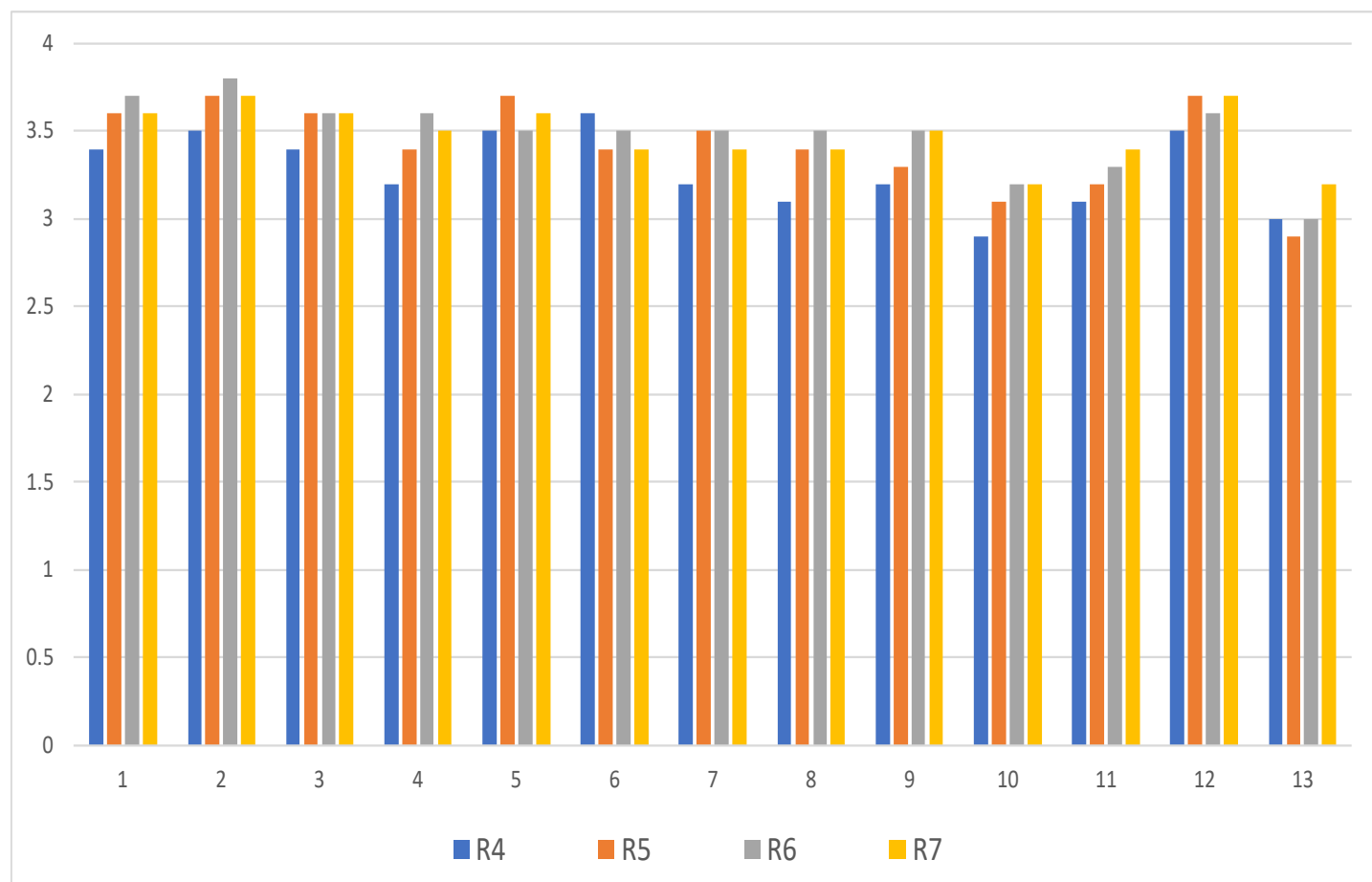


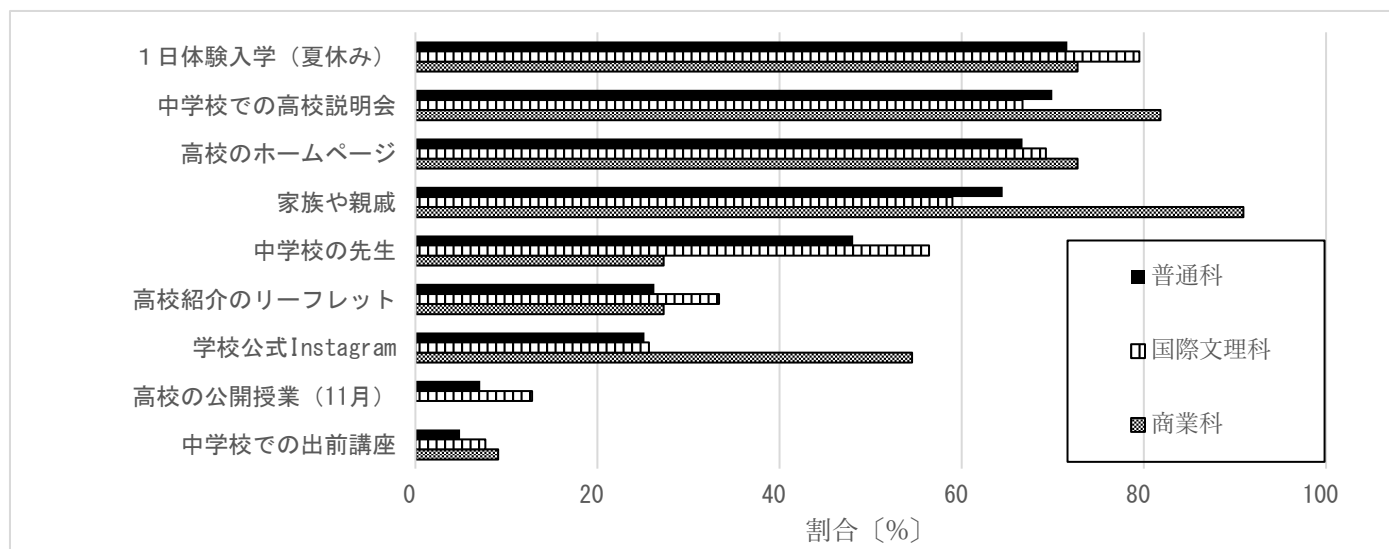
図 教職員アンケートの推移（４年間、各２月実施、４段階評価）

※項目番号は上の表に対応

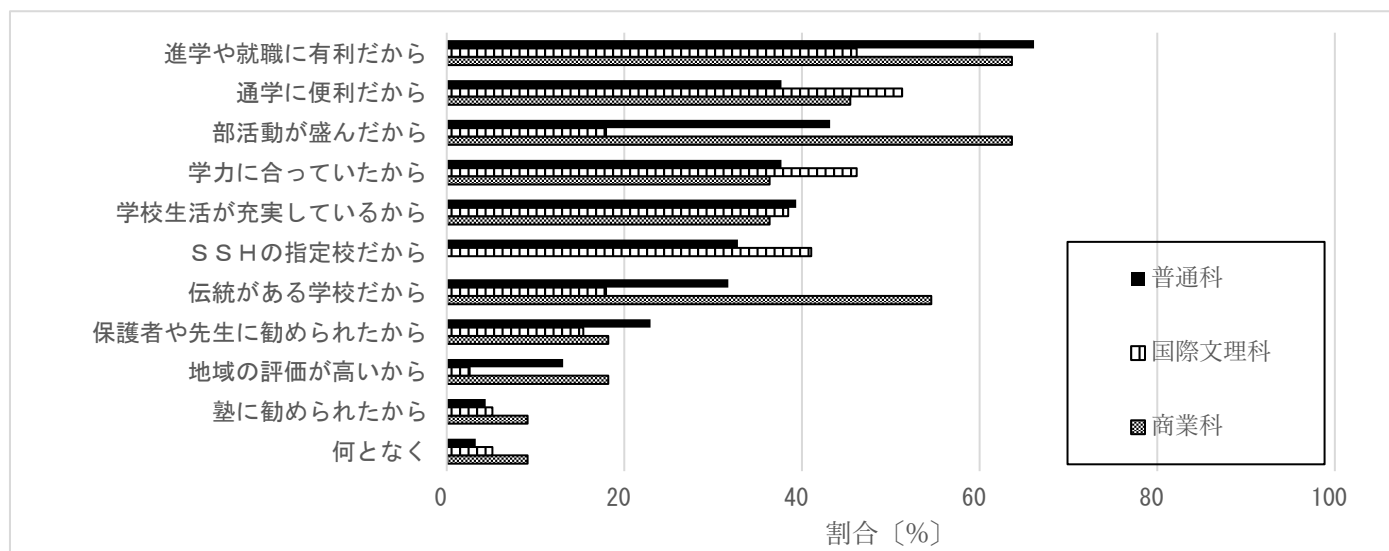
(3) SSH新入生アンケート（学科別回答結果）

有効回答数：233名 4月27日現在

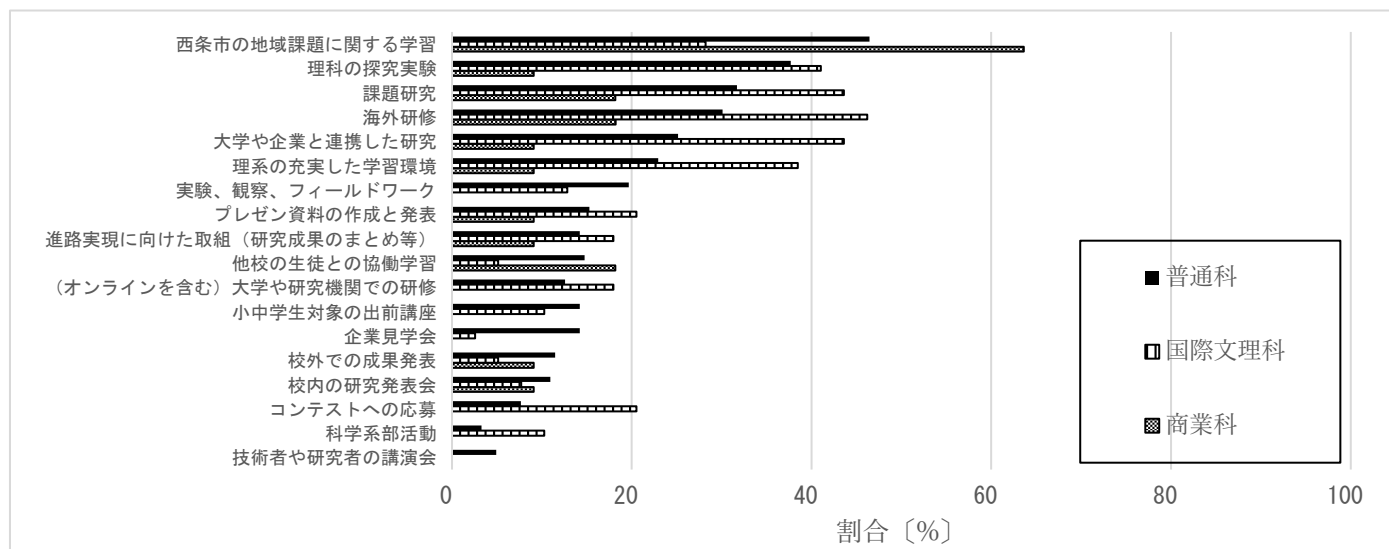
設問 あなたは、西条高校について詳しい情報をどこから得ましたか。（該当するもの全て）



設問 あなたが西条高校を選んだ理由は何ですか。（特に強いもの3つ）



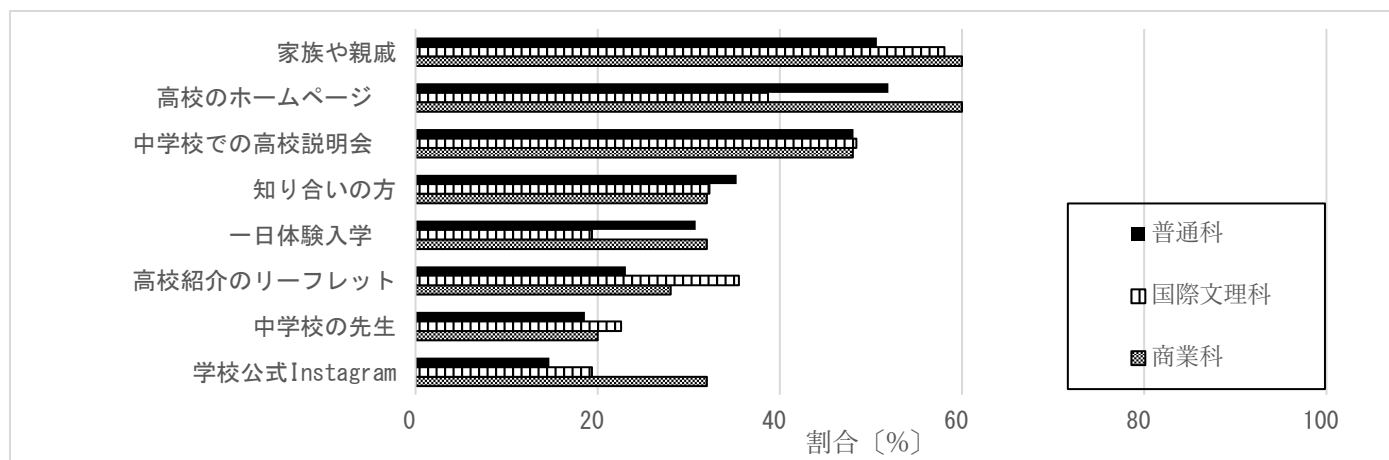
設問 あなたがSSHの活動で現在興味を持っていることや力を入れたいことは何ですか。（特に強いもの3つ）



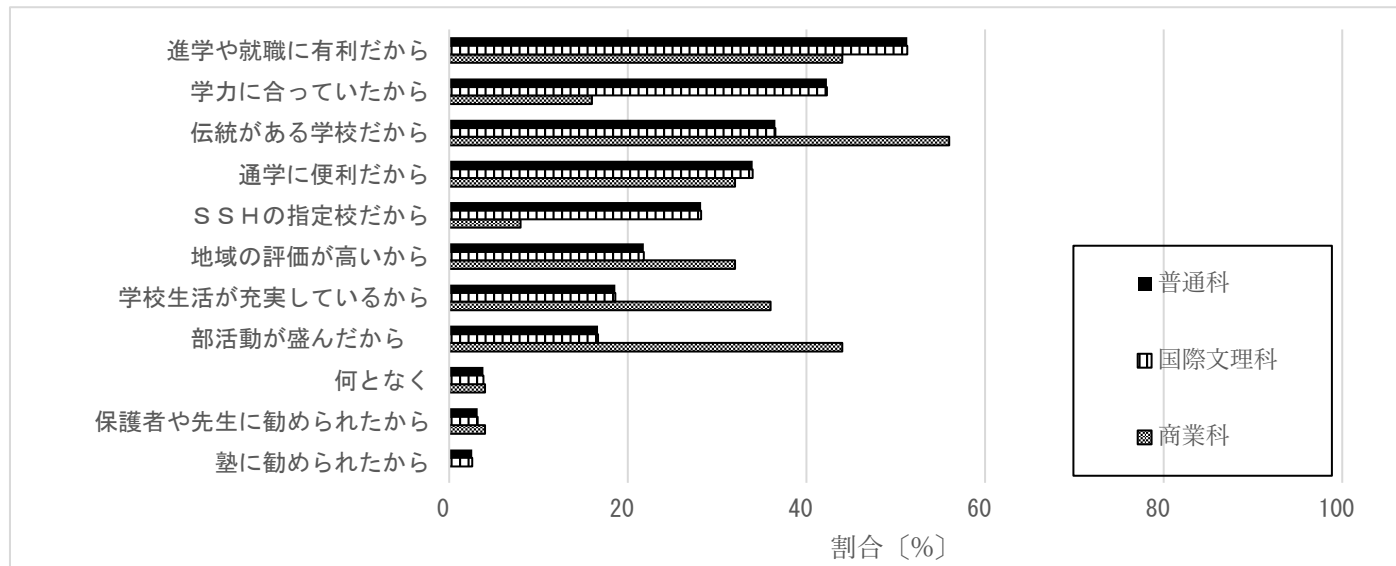
(4) SSH新入生保護者アンケート（学科別回答結果）

有効回答数：212名 4月27日現在

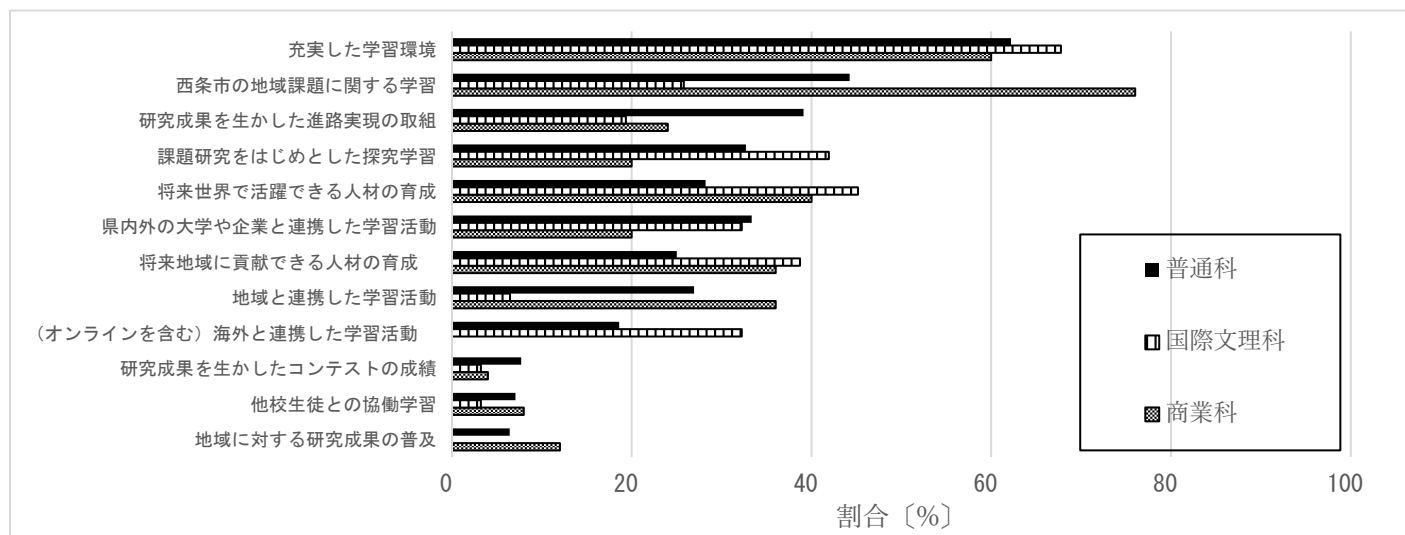
設問 西条高校進学をご子弟に勧めるに当たって、西条高校に関する情報はどこから得ましたか。該当するものすべてを選んでください。



設問 あなたがご子弟に西条高校進学を勧めた理由は何ですか。（特に強いもの3つ）



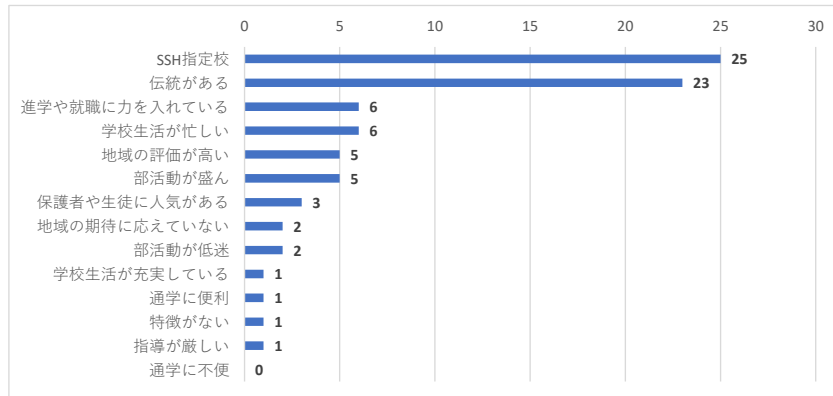
設問 SSH指定校としての西条高校に期待することは何ですか。（特に強いもの3つ）



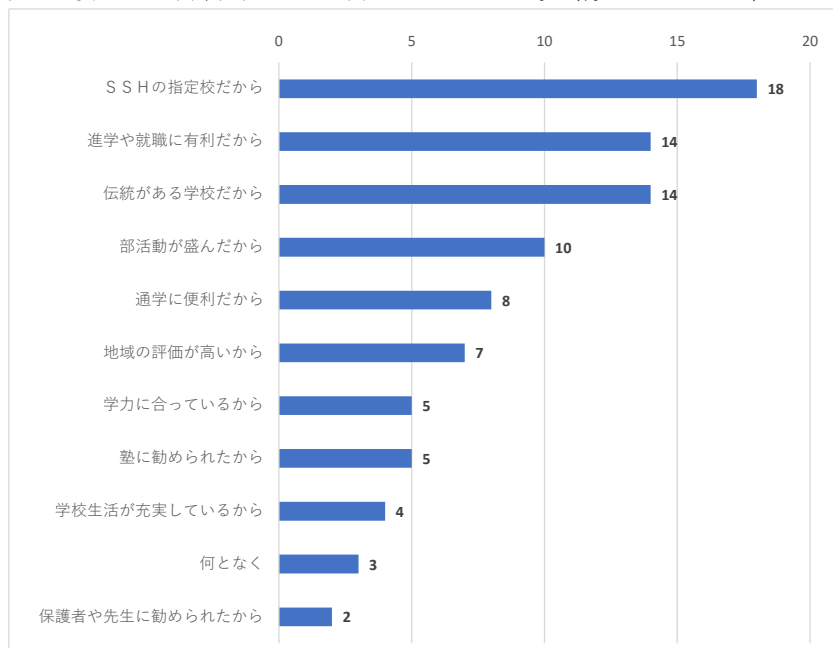
(5) 近隣中学校教員アンケート

令和7年6月実施、有効回答数：30名

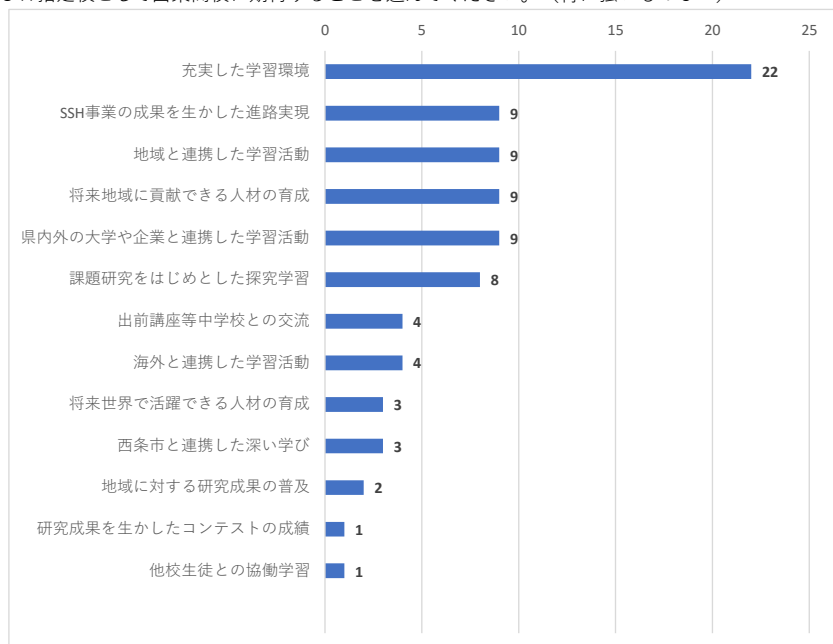
設問 西条高校のイメージについて、以下から3つまで選んでください。



設問 生徒が進学先として西条高校を選ぶ理由を選んでください。（特に強いもの3つ）



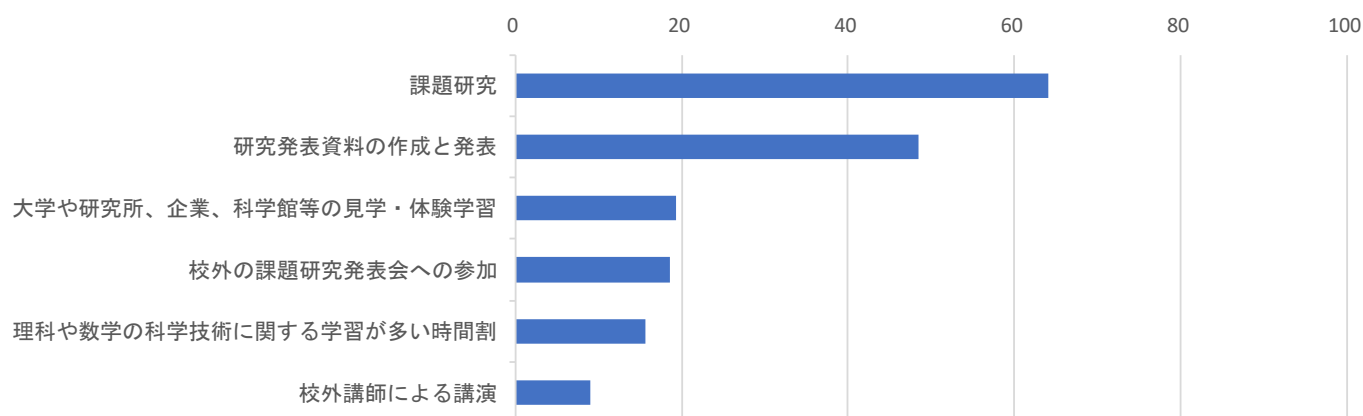
設問 S S H指定校として西条高校に期待することを選んでください。（特に強いもの3つ）



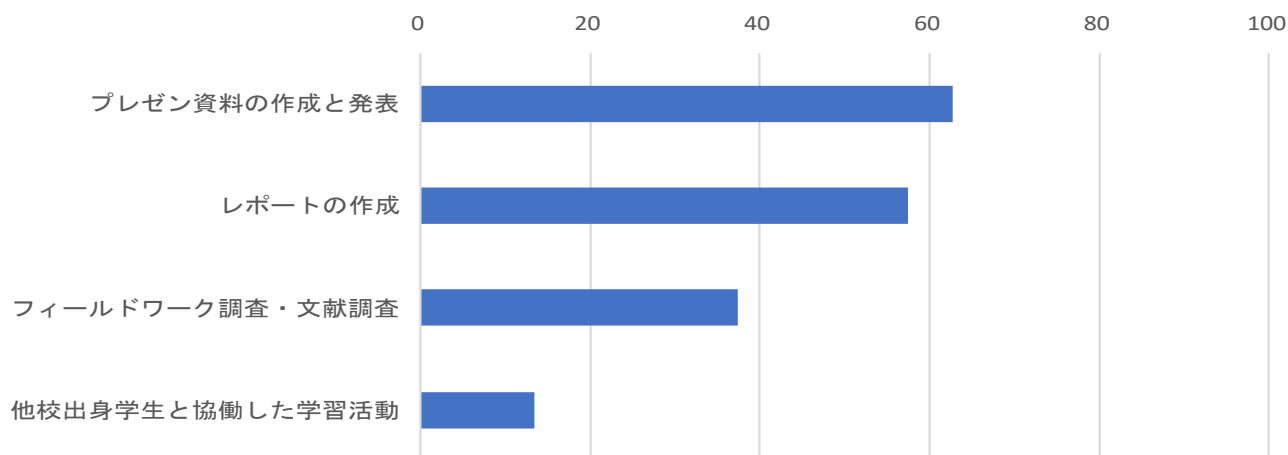
(6) SSH卒業生アンケート

有効回答数：134名 6月8日現在

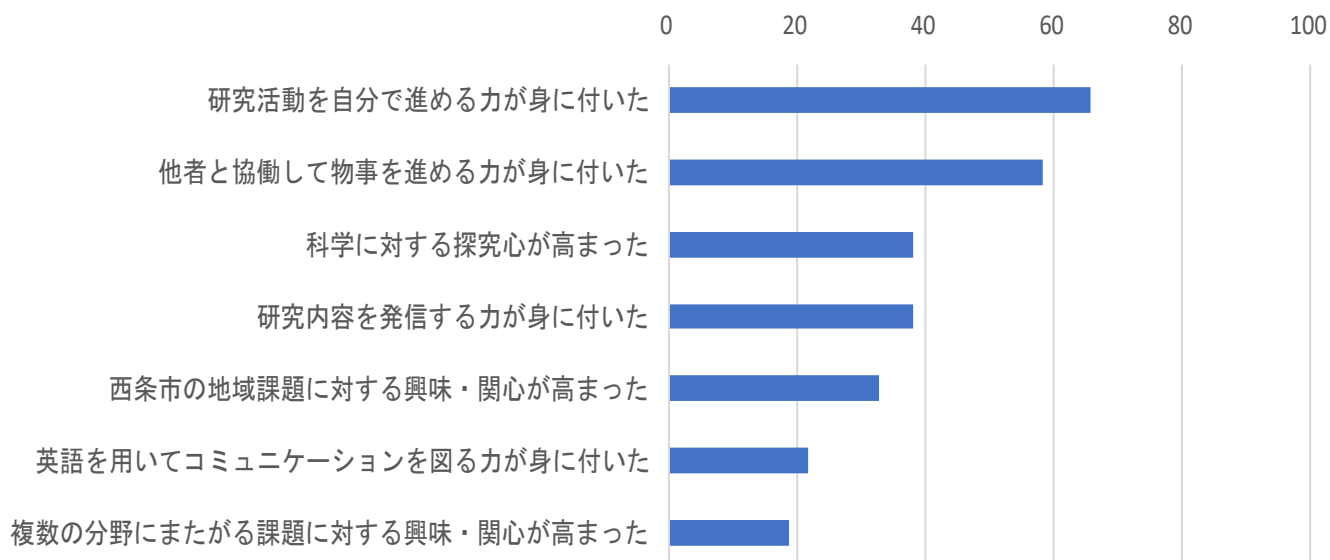
設問 高校在籍時のSSH活動において、現在の専攻分野（大学等での学び）に役立った経験は何ですか。



設問 高校在籍時のSSH活動は、大学生活等のどのような場面で役立ちましたか。



設問 高校在籍時のSSH活動を経験して、自分自身にどのような変化がありましたか。



(7) SSH事業と進路との関連について（国公立大学合格者内訳における比較 合格者は延べ人数）

【注1】

2020年度入試（現在の大学院2年生または社会人2年目）：SSH事業の対象ではない卒業生
 2021年度入試（現在の大学院1年生または新社会人）：SSH事業対象の卒業生（SSH1期生）
 2022年度入試（現在の大学4年生）：SSH事業対象の卒業生（SSH2期生）
 2023年度入試（現在の大学3年生）：SSH事業対象の卒業生（SSH3期生）
 2024年度入試（現在の大学2年生）：SSH事業対象の卒業生（SSH4期生）
 2025年度入試（現在の大学1年生）：SSH事業対象の卒業生（SSH5期生）

【注2】

2020年度入試では、総合型→AO、共テ→センターに読み替えてください。

ア 合格者概要（現役生のみ）

	学校推薦型		総合型		一般			
入試年度	共テ有	共テ無	共テ有	共テ無	前期	中期	後期	計
2020年度入試	10	14	5	10	34	1	6	80
2021年度入試	25	18	11	19	34	6	10	123
2022年度入試	16	26	4	22	34	0	3	105
2023年度入試	12	21	9	21	37	0	9	109
2024年度入試	14	28	3	12	39	3	4	103
2025年度入試	18	25	1	13	54	1	6	118

イ 共通テスト有りの学校推薦型及び総合型の割合

入試年度	全合格者に対する		学校推薦型に対する	総合型に対する
	学校推薦型	総合型		
	共テ有の割合	共テ有の割合	共テ有の割合	共テ有の割合
2020年度入試	12.5%	6.3%	41.7%	33.3%
2021年度入試	20.3%	8.9%	58.1%	36.7%
2022年度入試	15.2%	3.8%	38.1%	15.4%
2023年度入試	11.0%	8.3%	36.4%	30.0%
2024年度入試	13.6%	2.9%	33.3%	20.0%
2025年度入試	15.3%	0.8%	41.9%	7.1%

ウ 学校推薦型及び総合型の出願数と合格者数

入試年度	学校推薦型				総合型			
	共テ有	合格率	共テ無	合格率	共テ有	合格率	共テ無	合格率
2020年度入試	10/45	22.2%	14/42	33.3%	5/8	62.5%	10/49	20.4%
2021年度入試	25/34	73.5%	18/37	48.6%	11/28	39.3%	19/43	44.2%
2022年度入試	16/29	55.2%	26/56	46.4%	4/15	26.7%	22/47	46.8%
2023年度入試	12/27	44.4%	21/51	41.2%	9/13	69.2%	21/47	44.7%
2024年度入試	14/27	51.9%	28/44	63.6%	3/8	37.5%	12/35	34.3%
2025年度入試	18/45	40.0%	25/53	47.2%	1/9	11.1%	13/36	36.1%

7 各種コンテストへの出品及び受賞状況

(1) 自然科学系

コンテスト名	Ⅱ期第3年次 令和7年度		Ⅱ期第2年次 令和6年度		Ⅱ期第1年次 令和5年度		Ⅰ期第5年次 令和4年度		Ⅰ期第4年次 令和3年度	
	応募数 (参加人数)	成果	応募数 (参加人数)	成果	応募数 (参加人数)	成果	応募数 (参加人数)	成果	応募数 (参加人数)	成果
高校生おもしろ科学コンテスト	24名		102名		109名		104名		118名	
物理チャレンジ	7名		9名		13名		21名		20名	
化学グランプリ			1名				19名		67名	
生物オリンピック			9名		11名		15名		37名	
地学オリンピック	6名		6名		7名		4名		3名	
日本学生科学賞	1	愛媛県議会議員賞1	4	教育長賞1 優秀賞3	3	愛媛県議会議員賞1 優秀賞2	3	愛媛県知事賞	1	中央審査入選3等
JSEC	2		1	入選	1	入選			1	入選
SSH研究発表会	1		1		1	ポスター発表賞 生徒投票賞	1	ポスター発表賞	1	ポスター発表賞
STI for SDGsアワード[JST]							1	最優秀次世代賞		
全国高等学校総合文化祭自然科学部門	1		1	奨励賞	1	文化連盟賞	1	優秀賞	1	優秀賞
TISF[National Taiwan Science Education Center]							1			
I-FEST[the Tunisian Association for the future of Science and Technology]			1	銅メダル	1	オンライン参加、金メダル				
GSSES International Symposium[IPB University, Indonesia]	2	Special Award (3位) 1								
知の甲子園Q-1 2025年大会	1	特別研究賞・ダイゲン賞・朝日中高生新聞賞								
日本物理学会Jr. セッション							4	奨励賞1	2	物理2
化学工学会 学会発表					2	物理2	1	物理1	1	物理1
化学工学会 学生発表会							2	化学2	2	化学2
日本金属学会 高校・専門学生ポスターセッション			1						1	優秀賞1
中国四国地区生物系三学会合同大会高校生ポスター発表	2		1							
サイエンスファーム (日本獣医学会学術集会) [酪農学園大学]	4	奨励賞4	2	奨励賞2	4	奨励賞4			1	生物1
高校生自由研究コンテスト[高崎健康福祉大]							3	入賞1		
神奈川大学全国高校生理科・科学論文大賞					1		1		1	努力賞
第15回朝永振一郎記念「科学の芽」賞					1	努力賞	1	努力賞	1	努力賞
坊ちゃん科学賞研究論文コンテスト[東京理科大学]					1	優秀賞				
高校生のためのポスターセッションin京都大学	1	(3月実施)	1			今年度実施なし	1	ユニット長賞	1	ユニット長賞
高校化学グランドコンテスト[大阪公立大学・横浜国立大学・読売新聞]	3	ポスター賞・金賞	3	ポスター賞・賞生賞賞	2	口頭発表金賞・ポスター賞・銅賞	1	開催無し 海外派遣に応募し採用	2	審査委員長賞1金賞1
社会共創コンテスト[愛媛大学]					2		3		2	奨励賞1
山陽学園大学地域マネジメントコンテスト	4		4		31	奨励賞1				
高校生サイエンス研究発表会[第一薬科大学]	10	(3月実施)	19	奨励賞1 リケジョ奨励賞	20		12		3	
大分大学なるほどアイデアコンテスト	5		16	大分県教育委員会教育長賞・優秀賞・奨励賞						
バイオ甲子園[東城大]									6	生物6
はばたけ未来の吉岡潤生賞[掛川市]									3	奨励賞1
杉田玄白記念 学問事始大賞[小浜市]									1	最優秀賞
グローバルサイエンティストアワード”夢の翼”							1			
算数・数学の自由研究作品コンクール[理数教育研究所]									1	数学1
高校生ポスター研究発表[藤原ナチュラルヒストリー振興財団]							1	優秀賞1	1	化学1
テクノアイデアコンテスト「テクノ愛」 [【共催】公益財団法人 京都科学技術センター]			1	奨励賞						
中高生のためのかはく科学研究プレゼンテーション大会[愛媛県総合科学博物館]	9	ポスター奨励賞	9	ステージ教育長賞	5	ステージ知事賞 ポスター教育長賞	4	ステージ知事賞 ポスター奨励賞	2	愛媛県教育委員会教育長賞1
生物多様性を守りたい! 甲子園[愛媛県自然保護課]	2	優秀賞1 奨励賞1	1	奨励賞1	1	奨励賞1	1	奨励賞1	1	奨励賞1
マスフェスタ[大阪府立大手前高]	1		1		1		1			
中高生探究コンテスト[鶴岡CURI0 SCHOOL]			10		8					
FESTAT (全国統計探究発表会) [香川県立観音寺第一高]	1		1		2		2		3	
中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表大会	2	ステージ優良賞	2	ポスター優秀賞	2	ステージ優良賞	1		3	
集まれ!理系女子-四国大会-[清心女子高]		実施なし		実施なし		実施なし	2		2	
愛媛県生徒理科研究作品[愛媛県教育委員会]	14	優秀賞1 努力賞5	15	優秀賞1 努力賞3	13	優秀賞1 努力賞5	16	優秀賞2 努力賞3	16	優秀賞2 努力賞3
愛媛県高等学校総合文化祭自然科学部門	10	優秀賞1(全国大会出場・奨励賞)	5	優秀賞1(全国大会出場・奨励賞)	11	優秀賞1(全国大会出場・奨励賞)	7	優秀賞1(全国大会出場)	8	優秀賞1(全国大会出場・奨励賞2)
えひめサイエンスチャレンジ	5	(2月実施)	7	優秀賞1 奨励賞1	5		5		9	
計	81		107		119		77		77	

[] : 主催者 斜字 : 出品予定 斜字・下線 : 出品済で結果待ち

(2) 人文社会系

コンテスト名	Ⅱ期第3年次 令和7年度		Ⅱ期第2年次 令和6年度		Ⅱ期第1年次 令和5年度		Ⅰ期第5年次 令和4年度		Ⅰ期第4年次 令和3年度	
	応募数 (参加人数)	成果	応募数 (参加人数)	成果	応募数 (参加人数)	成果	応募数 (参加人数)	成果	応募数 (参加人数)	成果
地域創生☆政策アイデアコンテスト[内閣府地方創生推進室]			9		47		7			
四国コンテンツ映像フェスタ[総務省四国総合通信局、四国情報通信懇談会]					1					
中高生日本語研究コンテスト[日本語学会]	3		2		1					
全国高校生 何でも、アリ。Creative Award[秋田公立美術大学]					1					
まちづくりヒーローコンテスト	6	個人優秀賞								
浦和大学おもちゃコンテスト									1	佳作1
地域の伝承文化に学ぶコンテスト[國學院大学、高校生新聞社]					1		1		4	
福知山公立大学 地域活性化策コンテスト「田舎力甲子園」	3		3						1	
関西大学ビジネスプラン・コンペティション										
全国高等学校歴史フォーラム[奈良大学、奈良県]									1	
山陽学園大学地域マネジメントコンテスト	27		22	奨励賞1	31	奨励賞1				
社会共創コンテスト[愛媛大学]	22		16		4		11	地域課題部門奨励賞1	16	
高校生サイエンス研究発表会[第一薬科大]					8		4	審査員賞1	9	優秀賞1 審査員賞1
大分大学なるほどアイデアコンテスト	85		64		65	学校協力賞	104	優秀賞1 奨励賞1 学校協力賞	77	優秀賞1 奨励賞1 学校協力賞
はばたけ未来の吉岡彌生賞[掛川市]									2	地歴1 保体1
杉田玄白記念 学問事始大賞[小浜市]									1	
エシカル甲子園[徳島県、徳島県教委]	3	ベストパフォーマンス賞、ナイスアイデア賞	1		1					
鳥居龍蔵記念 全国高校生歴史文化フォーラム[徳島県立鳥居龍蔵記念博物館]			1		1	入賞(全国5位)	1	入賞(全国5位)	1	入賞(全国5位)
全国高等学校グローバル観光コンテスト「観光甲子園」[NEXT TOURISM]					6	予選			2	本選決勝大会出場1 本選出場1
日経STOCKリーグ[日本経済新聞社]										
全国高等学校商い選手権大会「商い甲子園」	3	安芸本町商店街振興会振興組合賞、安芸商工会議所賞、安芸市観光協会会長賞	2	高知県知事賞、安芸本町商店街振興組合賞、審査委員長特別賞	2	安芸本町商店街振興組合賞、安芸商工会議所賞	中止		中止	
2021Voice of Youth Empowerment サスナナ 英語プレゼンテーション [ユネスコ・アジア文化センター、フジテレビジョン]							2021年限り		1	最終発表会出場1
中高生探究コンテスト[關CURIO SCHOOL]			22		19					
全国高校生ホームプロジェクトコンクール[全国高等学校家庭クラブ連盟]										
えひめ地域づくりアワードユース[えひめ地域活力創造センター]			3				2	優秀賞1 奨励賞1	1	奨励賞
愛媛県国際教育生徒研究発表会					6				2	意見発表の部1 研究発表の部1
EGFアワード[愛媛県、えひめ産業振興財団]							1	奨励賞1		
愛媛県高等学校家庭科ホームプロジェクト[愛媛県高等学校家庭クラブ連盟]			2		1	佳作	2	優秀賞1	2	優秀賞・佳作
愛媛県商業研究・意見発表大会[愛媛県教委・愛媛県商業教育研究会]			1		1		1		1	
愛媛県商業教育生徒研究発表会[愛媛県教委・愛媛県商業教育研究会]			1		1	第3位	1			
えひめSDGs甲子園[NPO法人RES]	4		5							
計	156		154		197		135		122	

[] : 主催者 斜字 : 出品予定 斜字・下線 : 出品済で結果待ち

自然科学系	81	予定を含む	107		119		77		77	
人文社会系	156		154		197		135		122	
合 計	237		261		316		212		199	

令和5年度指定
スーパーサイエンスハイスクール
研究開発実施報告書（第3年次）【本文有り】

令和8年3月発行
発行者 愛媛県立西条高等学校

〒793-8509 愛媛県西条市明屋敷234番地
T E L 0897-56-2030 F A X 0897-56-2059
U R L <https://saijo-h.esnet.ed.jp>

